

---

---

# ADVANTEST®

株式会社アドバンテスト

---

R3681 シリーズ OPT83

AMP 測定ソフトウェア

ユーザーズ・ガイド

MANUAL NUMBER FOJ-8440169A00

---

適用機種

R3681

R3671



# 目次

<b>1.</b>	<b>はじめに</b> .....	1-1
1.1	本書の内容 .....	1-1
1.2	製品概要 .....	1-2
1.3	本器に関する他のマニュアル .....	1-2
1.4	本書の表記ルール .....	1-3
1.5	登録商標 .....	1-3
<b>2.</b>	<b>ご使用前の注意</b> .....	2-1
2.1	異常が発生した場合には .....	2-1
2.2	ケースの取り外しについて .....	2-1
2.3	過電流保護について .....	2-1
2.4	ハード・ディスク・ドライブについて .....	2-1
2.5	タッチ・スクリーンの取り扱いについて .....	2-2
2.6	ソフトウェアを安定して動作させるために .....	2-2
2.7	運搬時の注意 .....	2-3
2.8	電波障害について .....	2-3
2.9	電源投入時の注意 .....	2-3
2.10	パネル脱着時の注意 .....	2-3
2.11	Windows XP の使用条件 .....	2-5
<b>3.</b>	<b>セットアップ</b> .....	3-1
3.1	開梱時の検査 .....	3-1
3.2	設置環境の確保 .....	3-2
3.2.1	使用環境 .....	3-2
3.2.2	静電気対策 .....	3-3
3.3	アクセサリの接続 .....	3-5
3.3.1	キーボードとマウスの接続 .....	3-5
3.4	電源について .....	3-6
3.4.1	供給電源の確認 .....	3-6
3.4.2	電源ケーブルの接続 .....	3-7
3.5	動作チェック .....	3-8
<b>4.</b>	<b>測定例</b> .....	4-1
4.1	Two Tone 測定例 .....	4-1
4.2	AM/AM AM/PM 測定例 .....	4-5
<b>5.</b>	<b>メニュー・マップ、機能説明</b> .....	5-1
5.1	メニュー・インデックス .....	5-1
5.2	通信システムの切り替え .....	5-3
5.3	ファンクション・バー .....	5-3
5.4	ソフト・メニュー・バー .....	5-3
5.5	キー別機能説明 .....	5-4
5.5.1	{MEAS CONTROL} .....	5-4
5.5.2	{MEAS MODE} .....	5-7
5.5.3	{DISPLAY} .....	5-9
5.5.4	{SCALE} .....	5-12

## 目次

5.5.5	{MKR} .....	5-13
5.5.6	{INPUT} .....	5-14
5.5.7	{TRIGGER} .....	5-15
5.5.8	{LEVEL} .....	5-16
5.5.9	{FREQ} .....	5-17
5.5.10	メジャーメント・ツール・バー .....	5-18
<b>6.</b>	<b>SCPI コマンド・リファレンス</b> .....	<b>6-1</b>
6.1	コマンド・リファレンスの書式 .....	6-1
6.2	共通コマンド .....	6-3
6.3	測定コマンド .....	6-4
6.3.1	Subsystem-SYSTEM .....	6-4
6.3.2	Subsystem-INPut .....	6-4
6.3.3	Subsystem-CONFigure .....	6-5
6.3.4	Subsystem-SENSe .....	6-5
6.3.5	Subsystem-TRIGger .....	6-6
6.3.6	Subsystem-INITiate .....	6-6
6.3.7	Subsystem-CALCulate .....	6-7
6.3.8	Subsystem-DISPlay .....	6-8
6.3.9	Subsystem-MMEMory .....	6-9
6.3.10	Subsystem-MEASure .....	6-10
6.3.11	Subsystem-READ .....	6-11
6.3.12	Subsystem-FETCh .....	6-12
6.3.13	Subsystem-CALibration .....	6-13
6.4	ステータス・レジスタ .....	6-14
<b>7.</b>	<b>パフォーマンス・ベリフィケーション</b> .....	<b>7-1</b>
7.1	試験信号の仕様 .....	7-1
7.2	試験の手順 .....	7-2
7.2.1	Two Tone 電力測定の場合 .....	7-2
7.2.1.1	電力測定 .....	7-2
7.2.2	Two Tone 位相測定の場合 .....	7-3
7.2.2.1	位相測定 .....	7-3
7.3	テスト・データ記録用紙 .....	7-4
<b>8.</b>	<b>仕様</b> .....	<b>8-1</b>
8.1	Two Tone 解析適応信号 .....	8-1
8.2	Two Tone 解析の性能 .....	8-1
8.3	AM/AM AM/PM 解析機能 .....	8-2
8.4	AM/AM AM/PM 解析適応信号 .....	8-2
<b>付録</b>	.....	<b>A-1</b>
A.1	技術資料 (Two Tone) .....	A-1
A.1.1	2 信号歪 .....	A-1
A.2	技術資料 (AM/AM AM/PM) .....	A-2
A.2.1	特性曲線係数 .....	A-2
A.2.2	プリディストーション .....	A-2
A.3	測定データ・セーブ機能 .....	A-4

A.3.1	測定結果の保存フォーマット (Two Tone) .....	A-4
A.3.1.1	Vector .....	A-4
A.3.1.2	Power Spectrum .....	A-4
A.3.1.3	Power Time .....	A-5
A.3.2	測定結果の保存フォーマット (AM/AM AM/PM) .....	A-5
A.3.2.1	AM/AM .....	A-5
A.3.2.2	AM/PM .....	A-6
A.3.2.3	CCDF .....	A-6
A.3.2.4	Power Spectrum .....	A-7
A.3.2.5	Power Time .....	A-7
A.4	エラー・メッセージ 一覧 .....	A-8
索引	.....	I-1



## 図一覽

図番号	名 称	ページ
3-1	使用環境 .....	3-2
3-2	人体の静電気対策 .....	3-3
3-3	作業場の床の静電気対策 .....	3-3
3-4	作業台の静電気対策 .....	3-4
3-5	キーボードとマウスの接続 .....	3-5
3-6	電源ケーブルの接続 .....	3-7
3-7	<b>POWER</b> スイッチ .....	3-8
3-8	初期設定画面 .....	3-9
3-9	オート・キャリブレーション .....	3-10
4-1	外部 SG2 台を使った Two Tone 測定接続図 .....	4-2
4-2	<b>[Two Tone Parameters Setup]</b> ダイアログ・ボックス .....	4-3
4-3	Two Tone 測定の実行結果 .....	4-4
4-4	Reference データ取得時の接続図 .....	4-6
4-5	測定実行時の接続図 .....	4-6
4-6	<b>[AM/AM AM/PM Parameters Setup]</b> ダイアログ・ボックス .....	4-7
4-7	AM/AM AM/PM 測定の実行結果 .....	4-8
6-1	ステータス・レジスタの詳細 .....	6-14
7-1	信号源の接続図 .....	7-2
7-2	信号源の接続図 .....	7-3
A-1	プリディストーション例 .....	A-3





## 表一覧

表番号	名 称	ページ
3-1	標準付属品 .....	3-1
3-2	静電気対策 .....	3-3
3-3	電源仕様 .....	3-6
7-1	試験信号の仕様一覧 .....	7-1
A-1	エラー・メッセージ一覧 .....	A-8



## 1. はじめに

この章では、本書を有効に活用していただくために、本書の内容と R3681 シリーズ・シグナル・アナライザ・オプション 83 AMP 測定ソフトウェアの製品概要について説明します。

### 1.1 本書の内容

本書の各章の内容は以下のとおりです。

シグナル・アナライザの基本的な操作方法、機能、リモート・プログラミングについては「1.3 本器に関する他のマニュアル」を参照して下さい。

第 1 章「はじめに」	本書を有効に活用していただくために、本書の内容および製品概要について説明します。
第 2 章「ご使用前の注意」	本器を使用する際の注意事項を説明します。ご使用前に必ずお読み下さい。
第 3 章「セットアップ」	本器がお手元に届いてからのセットアップについて説明します。設置環境を確保したあと、電源を投入し、本器が正常に起動することを確認します。
第 4 章「測定例」	代表的な測定例について説明します。
第 5 章「メニュー・マップ、機能説明」	ソフト・キーのメニュー構成と機能を説明します。
第 6 章「SCPI コマンド・リファレンス」	SCPI コマンド・リファレンスです。コマンド・リファレンスは、コマンドを機能順に説明します。説明では、以下の内容を説明します。 ・コマンド書式 ・機能説明 ・パラメータ ・クエリ応答
第 7 章「パフォーマンス・ベリフィケーション」	オプション 83 の性能確認試験手順を説明します。
第 8 章「仕様」	オプション 83 の仕様を示します。
付録	技術資料、エラー・コード表などを説明します。

## 1.2 製品概要

### 1.2 製品概要

AMP 測定オプションは、AMP の非線形特性を測定するソフトウェアです。

このオプションには、以下の特長があります。

- Two Tone 測定モードでは、2つの異なる周波数の正弦波を加算した信号を対象に、3次、5次の歪成分の振幅と位相を測定します。
- AM/AM AM/PM 測定モードでは、変調信号を対象に、入力信号振幅に対する出力信号振幅、位相を測定します。
- CCDF 測定モードでは、被測定信号の CCDF を測定します。

### 1.3 本器に関する他のマニュアル

R3681 シリーズには以下のマニュアルが用意されています。

- ユーザーズ・ガイド (商品コード: {JR3681SERIES/U}、和文)  
R3681 シリーズ・シグナル・アナライザをお使いいただくうえで必要な情報が記載されています。セットアップから基本操作、応用測定、機能説明、仕様、メンテナンスなどが記載されています。
- プログラミング・ガイド (商品コード: {JR3681SERIES/P}、和文)  
R3681 シリーズ・シグナル・アナライザを用いて自動測定するためのプログラミングに関する情報が記載されています。リモート・コントロール概要、SCPI コマンド・リファレンス、アプリケーション・プログラム例などが記載されています。
- パフォーマンス・テスト・ガイド (商品コード: {JR3681SERIES/T}、和文)  
R3681 シリーズ・シグナル・アナライザの性能を確認するために必要な情報が記載されています。性能試験手順、仕様などが記載されています。

## 1.4 本書の表記ルール

本書では、パネル・キーおよび画面上のボタン、メニューなどを以下のように表記しています。  
パネル上のハード・キー

**Sample**

Sample というキー・ラベルを持つパネル上のハード・キーを表します。

例：**START**、**STOP**

画面上のシステム・メニュー

**[Sample]**

Sample というラベルを持ち、タッチすることにより選択・実行が可能な画面上のメニュー、タブ、ボタンまたはダイアログ・ボックスを表します。

例：**[File]** メニュー、**[Normal]** タブ、**[Option]** ボタン

画面上のファンクション・ボタン

**{Sample}**

Sample というラベルを持つ画面上のファンクション・ボタンを表します。

例：**{FREQ}** ボタン、**{SWEEP}** ボタン

画面上のソフト・メニュー・バー

**Sample**

Sample というラベルを持つ画面上のソフト・メニュー・バーのキーを表します。

例：**Center** キー、**Span** キー

画面上のシステム・メニューのキー操作

**[File]→[Save As...]**

**[File]** メニューをタッチしたあとに、**[Save As...]** を選択することを表します。

連続するキー操作

**{FREQ}, Center**

**{FREQ}** ボタンをタッチしたあとに、**Center** キーをタッチすることを表します。

トグル・キー操作

**ΔMarker On/Off (On)**

**ΔMarker On/Off** キーをタッチすることにより **ΔMarker** を On にすることを表します。

---

注 外観、画面図等は、R3681 シリーズを代表して、R3681 の内容で記述しています。

---

## 1.5 登録商標

- Microsoft® および Windows® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。



## 2. ご使用前の注意

この章では、本器をお使いになる際に注意していただきたいことを説明します。お使いになる前に必ずお読み下さい。

### 2.1 異常が発生した場合には

本器から煙が出たり、異臭・異音を感じたときは、電源ブレーカを OFF にし、電源ケーブルを AC 電源コネクタから引き抜いて、本器と電源を切り離して下さい。その後、ただちに当社または代理店へ連絡して下さい。

### 2.2 ケースの取り外しについて

当社サービスマン以外の方は、ケースを開けないで下さい。

---

**警告** 本器の内部には高電圧部と高温部があり、感電や火傷をするおそれがあります。

---

### 2.3 過電流保護について

本器は電源ブレーカで過電流保護をしています。

電源ブレーカはリア・パネルにあり、過電流が生じると強制的に電源供給を遮断します。この電源ブレーカが OFF になったときは、電源ケーブルを AC 電源コネクタから引き抜いて、本器と電源を切り離して下さい。この場合、本器に異常が発生したと思われるので、当社または代理店へ修理を依頼して下さい。

### 2.4 ハード・ディスク・ドライブについて

本器にはハード・ディスク・ドライブが内蔵されていますので、以下の点にご注意下さい。

- 衝撃や振動を与えないで下さい。  
データを保存しているディスクを傷付ける可能性があります。特に、動作中は、誤動作や故障をする可能性が大きくなります。
- HDD アクセス・ランプ点灯中に、電源を切らないで下さい。  
アクセス中のデータを破壊する可能性があります。

---

**注意** ハード・ディスク・ドライブに障害が発生し、保存されたデータが消失または破壊された場合、当社では一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。

---

## 2.5 タッチ・スクリーンの取り扱いについて

### 2.5 タッチ・スクリーンの取り扱いについて

本器にはタッチ・スクリーンが搭載されていますので、以下の点にご注意下さい。

- 画面に強い衝撃や無理な力を加えないで下さい。  
ガラスが割れる可能性があります。
- 操作には付属のスタイラス・ペンを使用して下さい。  
先端の硬い材質のもの（シャープペンシルやボールペン等）で操作すると、画面を傷付ける可能性があります。

### 2.6 ソフトウェアを安定して動作させるために

本器は Microsoft 社製 Windows XP Embedded を搭載しています。

Windows アプリケーションによって測定機能を実現していますので、本書で記述した以外の目的や方法により、Windows 環境の変更は行わないで下さい。

また、本器は情報処理装置ではありません。本書で記述した以外の操作は行わないで下さい。

#### 1. 変更および削除を禁止する項目

- アプリケーション・プログラムのインストールを行うこと
- コントロール・パネル内に変更および削除を行うこと（ただし、R3681 シリーズ・ユーザーズ・ガイドの「付録 2. プリンタ・ドライバのインストール」および「付録 3. ネットワークの設定」は除く）
- C ドライブの既存ファイルの起動およびファイル操作を行うこと
- 測定中に、他のアプリケーションの起動およびファイル操作を行うこと
- Windows オペレーティング・システムのアップデートを行うこと
- お客様がアプリケーションをインストールした結果、本器が正常に動作しなくなった場合、本器に付属しているリカバリ・ディスクをインストールして、システムの再構築をお奨めします。
- リカバリ方法は R3681 シリーズ・ユーザーズ・ガイド 第 8 章の「8.7 システム・リカバリ手順」を参照して下さい。

#### 2. コンピュータ・ウイルス対策について

使用方法や環境によって、コンピュータ・ウイルスに感染する可能性があります。

安心してご使用いただくために、以下のウイルス対策をお勧めします。

- 本器に読み込むファイルや使用するメディアは、事前にウイルス・チェックを行う。
- ネットワークに接続する場合は、ウイルスに対し安全対策が施されたネットワークに接続する。

#### [ウイルスに感染した場合の対策]

- D ドライブのすべてのファイルを削除したあとに、本器に付属しているリカバリ・ディスクをインストールして、システムの再構築をお勧めします。  
リカバリ方法は R3681 シリーズ・ユーザーズ・ガイド 第 8 章の「8.7 システム・リカバリ手順」を参照して下さい。



## 2.7 運搬時の注意

本器は重量物につき、二人以上で持ち運ぶか、運搬用の台車で運んで下さい。

## 2.8 電波障害について

本器を使用すると、テレビやラジオ等に電波障害が発生することがあります。本器が電波障害の原因であるかは、本器の電源を OFF にしたときに、その障害が解消されることによって判断できます。

以下の方法を試みて、本器による電波障害を解消して下さい。

- 障害が発生しない方向に、テレビ／ラジオ等のアンテナの向きを変える
- テレビ／ラジオ等の反対側に、本器を設置する
- テレビ／ラジオ等から離れた場所に、本器を設置する
- 本器の電源は、テレビ／ラジオ等とは別の電源供給路にあるコンセントを使用する

## 2.9 電源投入時の注意

電源投入時は、被測定物も接続しないで下さい。

## 2.10 パネル脱着時の注意

本製品はパネル部を外し、測定部と離して使用することができます。パネルを外す際には、以下のことに注意して作業を行って下さい。

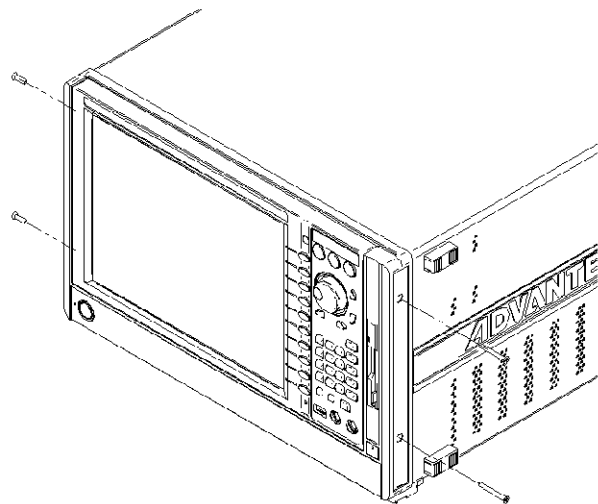
---

メモ パネルを外して使用する場合には、別売りの接続ケーブルが必要です。

---

- 電源が入っている場合は、電源をオフにして電源ケーブルを抜き、動作が停止していることを確認して下さい。
- パネル脱着時の際には、指をはさまないように注意して下さい。
- パネル脱着は水平で安定した台で行って下さい。
- 製品前部側面に露出している4カ所のネジを外して下さい。
- ネジを外す際、パネルに手を添え、不意にパネルが落下することのないようにして下さい。
- 4カ所のネジすべてを外したあと、パネル部を前方に引き出して下さい。
- パネルと本体を接続するケーブルを外して下さい。
- 使用条件に合った接続ケーブルに交換の上、使用して下さい。
- ネジ紛失のときは、下記ネジを使用して下さい。
  - キー側の2本、サラネジ M4X35 (鉄製かステンレス製)
  - 液晶側の2本、サラネジ M4X14 (鉄製かステンレス製)

2.10 パネル脱着時の注意



## 2.11 Windows XP の使用条件

### END-USER LICENSE AGREEMENT

- You have acquired a device (“INSTRUMENT”) that includes software licensed by [ADVANTEST] from Microsoft Licensing Inc. or its affiliates (“MS”). Those installed software products of MS origin, as well as associated media, printed materials, and “online” or electronic documentation (“SOFTWARE”) are protected by international intellectual property laws and treaties. The SOFTWARE is licensed, not sold. All rights reserved.
- IF YOU DO NOT AGREE TO THIS END USER LICENSE AGREEMENT (“EULA”), DO NOT USE THE INSTRUMENT OR COPY THE SOFTWARE. INSTEAD, PROMPTLY CONTACT [ADVANTEST] FOR INSTRUCTIONS ON RETURN OF THE UNUSED INSTRUMENT(S) FOR A REFUND. ANY USE OF THE SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO USE ON THE INSTRUMENT, WILL CONSTITUTE YOUR AGREEMENT TO THIS EULA (OR RATIFICATION OF ANY PREVIOUS CONSENT).
- **GRANT OF SOFTWARE LICENSE.** This EULA grants you the following license:
  - You may use the SOFTWARE only on the INSTRUMENT.
  - **NOT FAULT TOLERANT.** THE SOFTWARE IS NOT FAULT TOLERANT. [ADVANTEST] HAS INDEPENDENTLY DETERMINED HOW TO USE THE SOFTWARE IN THE INSTRUMENT, AND MS HAS RELIED UPON [ADVANTEST] TO CONDUCT SUFFICIENT TESTING TO DETERMINE THAT THE SOFTWARE IS SUITABLE FOR SUCH USE.
  - **NO WARRANTIES FOR THE SOFTWARE.** THE SOFTWARE is provided “AS IS” and with all faults. THE ENTIRE RISK AS TO SATISFACTORY QUALITY, PERFORMANCE, ACCURACY, AND EFFORT (INCLUDING LACK OF NEGLIGENCE) IS WITH YOU. ALSO, THERE IS NO WARRANTY AGAINST INTERFERENCE WITH YOUR ENJOYMENT OF THE SOFTWARE OR AGAINST INFRINGEMENT. IF YOU HAVE RECEIVED ANY WARRANTIES REGARDING THE INSTRUMENT OR THE SOFTWARE, THOSE WARRANTIES DO NOT ORIGINATE FROM, AND ARE NOT BINDING ON, MS.
  - **No Liability for Certain Damages.** EXCEPT AS PROHIBITED BY LAW, MS SHALL HAVE NO LIABILITY FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL OR INCIDENTAL DAMAGES ARISING FROM OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE SOFTWARE. THIS LIMITATION SHALL APPLY EVEN IF ANY REMEDY FAILS OF ITS ESSENTIAL PURPOSE. IN NO EVENT SHALL MS BE LIABLE FOR ANY AMOUNT IN EXCESS OF U.S. TWO HUNDRED FIFTY DOLLARS (U.S.\$250.00).
  - **Limitations on Reverse Engineering, Decompilation, and Disassembly.** You may not reverse engineer, decompile, or disassemble the SOFTWARE, except and only to the extent that such activity is expressly permitted by applicable law notwithstanding this limitation.
  - **SOFTWARE TRANSFER ALLOWED BUT WITH RESTRICTIONS.** You may permanently transfer rights under this EULA only as part of a permanent sale or transfer of the INSTRUMENT, and only if the recipient agrees to this EULA. If the SOFTWARE is an upgrade, any transfer must also include all prior versions of the SOFTWARE.
  - **EXPORT RESTRICTIONS.** You acknowledge that SOFTWARE is of US-origin. You agree to comply with all applicable international and national laws that apply to the SOFTWARE, including the U.S. Export Administration Regulations, as well as end-user, end-use and country destination restrictions issued by U.S. and other governments. For additional information on exporting the SOFTWARE, see <http://www.microsoft.com/exporting/>.
- ┌ **Installation and Use.** The SOFTWARE may not be used by more than two (2) processors at any one time on the INSTRUMENT. You may permit a maximum of ten (10) computers or other electronic devices (each a “Client”) to connect to the INSTRUMENT to utilize the services of the SOFTWARE solely for file and print services, internet information services, and remote access (including connection sharing and telephony services). The ten (10) connection maximum includes any indirect connections made through “multiplexing” or other software or hardware which pools or aggregates connections. Except as otherwise permitted in the NetMeeting/Remote Assistance/Remote Desktop Features terms below, you may not use a Client to use, access, display or run the SOFTWARE, the SOFTWARE’s user interface or other executable software residing on the INSTRUMENT.
- ┌ If you use the INSTRUMENT to access or utilize the services or functionality of Microsoft Windows Server products (such as Microsoft Windows NT Server 4.0 (all editions) or Microsoft Windows 2000 Server (all editions)), or use the INSTRUMENT to permit workstation or computing devices to access or utilize the services or functionality of Microsoft Windows Server products, you may be required to obtain a Client Access License for the INSTRUMENT and/or each such workstation or computing device. Please refer to the end user license agreement for your Microsoft Windows Server product for additional information.
- ┌ **Restricted Uses.** The SOFTWARE is not designed or intended for use or resale in hazardous environments requiring fail-safe performance, such as in the operation of nuclear facilities, aircraft navigation or communication systems, air traffic control, or other devices or systems in which a malfunction of the SOFTWARE would result in foreseeable risk of injury or death to the operator of the device or system, or to others.
- ┌ **Restricted Functionality.** You are licensed to use the SOFTWARE to provide only the limited functionality (specific tasks or processes) for which the INSTRUMENT has been designed and marketed by

## 2.11 Windows XP の使用条件

[ADVANTEST]. This license specifically prohibits any other use of the software programs or functions, or inclusion of additional software programs or functions, on the INSTRUMENT.

- **Security Updates.** Content providers are using the digital rights management technology (“Microsoft DRM”) contained in this SOFTWARE to protect the integrity of their content (“Secure Content”) so that their intellectual property, including copyright, in such content is not misappropriated. Owners of such Secure Content (“Secure Content Owners”) may, from time to time, request MS, Microsoft Corporation or their subsidiaries to provide security related updates to the Microsoft DRM components of the SOFTWARE (“Security Updates”) that may affect your ability to copy, display and/or play Secure Content through Microsoft software or third party applications that utilize Microsoft DRM. You therefore agree that, if you elect to download a license from the Internet which enables your use of Secure Content, MS, Microsoft Corporation or their subsidiaries may, in conjunction with such license, also download onto your INSTRUMENT such Security Updates that a Secure Content Owner has requested that MS, Microsoft Corporation or their subsidiaries distribute. MS, Microsoft Corporation or their subsidiaries will not retrieve any personally identifiable information, or any other information, from your INSTRUMENT by downloading such Security Updates.
- **NetMeeting/Remote Assistance/Remote Desktop Features.** The SOFTWARE may contain NetMeeting, Remote Assistance, and Remote Desktop technologies that enable the SOFTWARE or other applications installed on the INSTRUMENT to be used remotely between two or more computing devices, even if the SOFTWARE or application is installed on only one INSTRUMENT. You may use NetMeeting, Remote Assistance, and Remote Desktop with all Microsoft products; provided however, use of these technologies with certain Microsoft products may require an additional license. For both Microsoft products and non-Microsoft products, you should consult the license agreement accompanying the applicable product or contact the applicable licensor to determine whether use of NetMeeting, Remote Assistance, or Remote Desktop is permitted without an additional license.
- **Consent to Use of Data.** You agree that MS, Microsoft Corporation and their affiliates may collect and use technical information gathered in any manner as part of product support services related to the SOFTWARE. MS, Microsoft Corporation and their affiliates may use this information solely to improve their products or to provide customized services or technologies to you. MS, Microsoft Corporation and their affiliates may disclose this information to others, but not in a form that personally identifies you.
- || **Internet Gaming/Update Features.** If the SOFTWARE provides, and you choose to utilize, the Internet gaming or update features within the SOFTWARE, it is necessary to use certain computer system, hardware, and software information to implement the features. By using these features, you explicitly authorize MS, Microsoft Corporation and/or their designated agent to use this information solely to improve their products or to provide customized services or technologies to you. MS or Microsoft Corporation may disclose this information to others, but not in a form that personally identifies you.
- **Internet-Based Services Components.** The SOFTWARE may contain components that enable and facilitate the use of certain Internet-based services. You acknowledge and agree that MS, Microsoft Corporation or their affiliates may automatically check the version of the SOFTWARE and/or its components that you are utilizing and may provide upgrades or supplements to the SOFTWARE that may be automatically downloaded to your INSTRUMENT.
- || **Links to Third Party Sites.** The SOFTWARE may provide you with the ability to link to third party sites through the use of the SOFTWARE. The third party sites are not under the control of MS, Microsoft Corporation or their affiliates. Neither MS nor Microsoft Corporation nor their affiliates are responsible for (i) the contents of any third party sites, any links contained in third party sites, or any changes or updates to third party sites, or (ii) webcasting or any other form of transmission received from any third party sites. If the SOFTWARE provides links to third party sites, those links are provided to you only as a convenience, and the inclusion of any link does not imply an endorsement of the third party site by MS, Microsoft Corporation or their affiliates.
- **Additional Software/Services.** The SOFTWARE may permit [ADVANTEST], MS, Microsoft Corporation or their affiliates to provide or make available to you SOFTWARE updates, supplements, add-on components, or Internet-based services components of the SOFTWARE after the date you obtain your initial copy of the SOFTWARE (“Supplemental Components”).
- || If [ADVANTEST] provides or makes available to you Supplemental Components and no other EULA terms are provided along with the Supplemental Components, then the terms of this EULA shall apply.
- If MS, Microsoft Corporation or their affiliates make available Supplemental Components, and no other EULA terms are provided, then the terms of this EULA shall apply, except that the MS, Microsoft Corporation or affiliate entity providing the Supplemental Component(s) shall be the licensor of the Supplemental Component(s).

[ADVANTEST], MS, Microsoft Corporation and their affiliates reserve the right to discontinue any Internet-based services provided to you or made available to you through the use of the SOFTWARE.

This EULA does not grant you any rights to use the Windows Media Format Software Development Kit (“WMFSDK”) components contained in the SOFTWARE to develop a software application that uses Windows Media technology. If you wish to use the WMFSDK to develop such an application, visit <http://msdn.microsoft.com/workshop/imedia/windowsmedia/sdk/wmsdk.asp>, accept a separate license for the WMFSDK, download the appropriate WMFSDK, and install it on your system.

### 3. セットアップ

この章では、本器がお手元に届いてから、セットアップが完了するまで以下の項目について説明します。

- 3.1 開梱時の検査
- 3.2 設置環境の確保
- 3.3 アクセサリの接続
- 3.4 電源について
- 3.5 動作チェック

#### 3.1 開梱時の検査

製品がお手元に届きましたら、以下の手順に従い外観と付属品を検査して下さい。

1. 製品が梱包されていた箱や緩衝材に損傷がないか確認して下さい。

---

**重要** 箱または緩衝材に損傷がある場合、以下の検査が終わるまで、箱または緩衝材をそのままの状態にしておいて下さい。

---

2. 製品外部に損傷がないか確認して下さい。

---

**警告** カバー、パネル（正面および背面）、LCD ディスプレイ、電源スイッチ、コネクタなどに損傷がある場合、電源を投入しないで下さい。感電する恐れがあります。

---

3. 表 3-1 の OPT83 の標準付属品一覧により、標準付属品がそろっているか、損傷がないか確認して下さい。

以下のいずれかの場合には当社または代理店にご連絡下さい。

- 製品が梱包されていた箱や緩衝材に損傷がある場合、緩衝材に大きな力が加わった形跡がある場合
- 製品外部に損傷がある場合
- 標準付属品に欠品または損傷がある場合
- このあとの製品の動作確認で異常が確認された場合

表 3-1 標準付属品

名称	型名	数量	備考
R3681 シリーズ OPT83 ユーザーズ・ガイド	JR3681OPT83	1	和文

## 3.2 設置環境の確保

## 3.2 設置環境の確保

本器を正常に動作させるための設置環境について説明します。

## 3.2.1 使用環境

本器は、以下の条件に合う場所に設置して下さい。

- 周囲温度 +5 °C ~ +40 °C (使用温度範囲)  
-20 °C ~ +60 °C (保存温度範囲)
- 相対湿度 RH80% 以下 (ただし、結露のないこと)
- 腐食性ガスの発生しない場所
- 直射日光の当たらない場所
- 埃の少ない場所
- 振動のない場所
- ノイズの少ない場所

本器は、AC 電源ラインのノイズに対して、十分に考慮した設計がなされていますが、できるかぎりノイズの少ない環境で使用して下さい。

ノイズが避けられない場合は、ノイズ除去フィルタなどを使用して下さい。

- 設置姿勢

リア・パネルには吐き出しタイプの冷却ファンがあり、側面および下面前方には通気孔があります。このファンや通気孔をふさがらないで下さい。本器の排気を妨げると内部温度が上昇して、動作に支障をきたす場合があります。背面は壁から 10 cm 以上離して下さい。また、リア・パネルおよび側面を下にして使用しないで下さい。

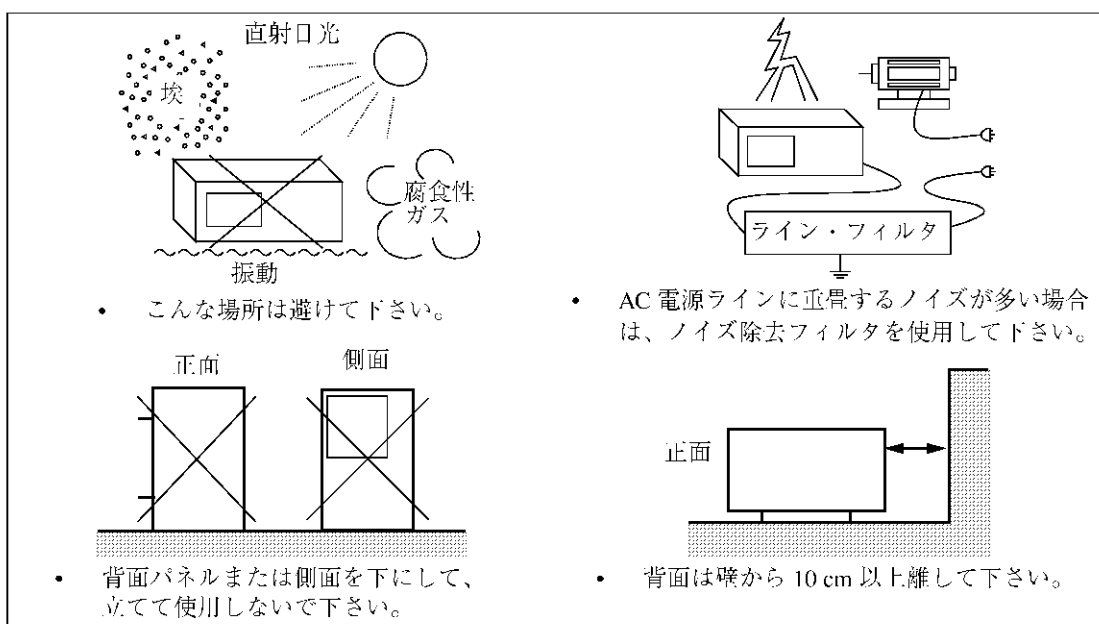


図 3-1 使用環境

### 3.2.2 静電気対策

静電気放電 (ESD) による半導体部品のダメージおよび破壊を防止するため、以下の対策を行って下さい。それぞれ単独での使用では完全とは言えず、併用することを推奨します。

(静電気は人が動いたり絶縁物の摩擦により簡単に発生します。)

表 3-2 静電気対策

人体	リスト・ストラップの装着 (図 3-2 を参照)
作業場の床	導電マットの設置と導電靴の着用、および接地 (図 3-3 を参照)
作業台	導電マットの設置、および接地 (図 3-4 を参照)

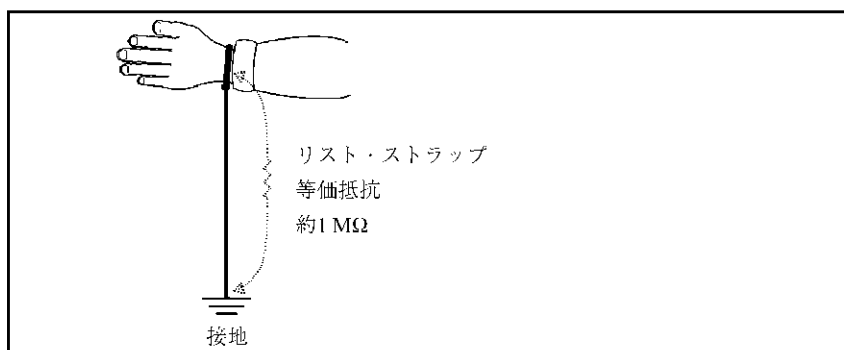


図 3-2 人体の静電気対策

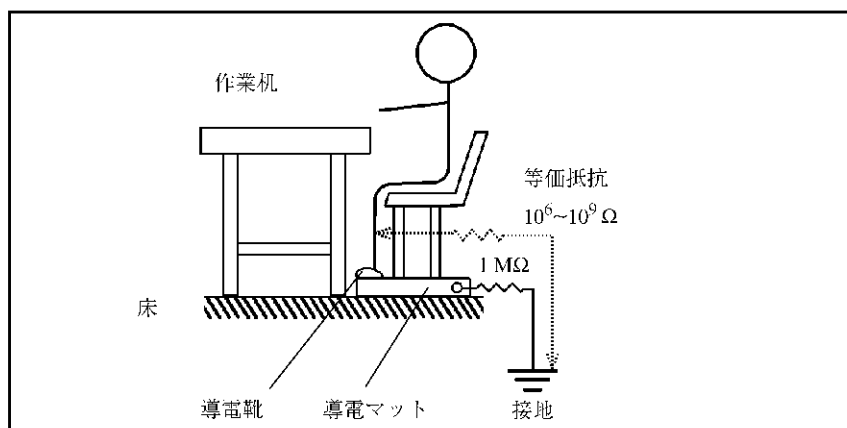


図 3-3 作業場の床の静電気対策

3.2.2 静電気対策

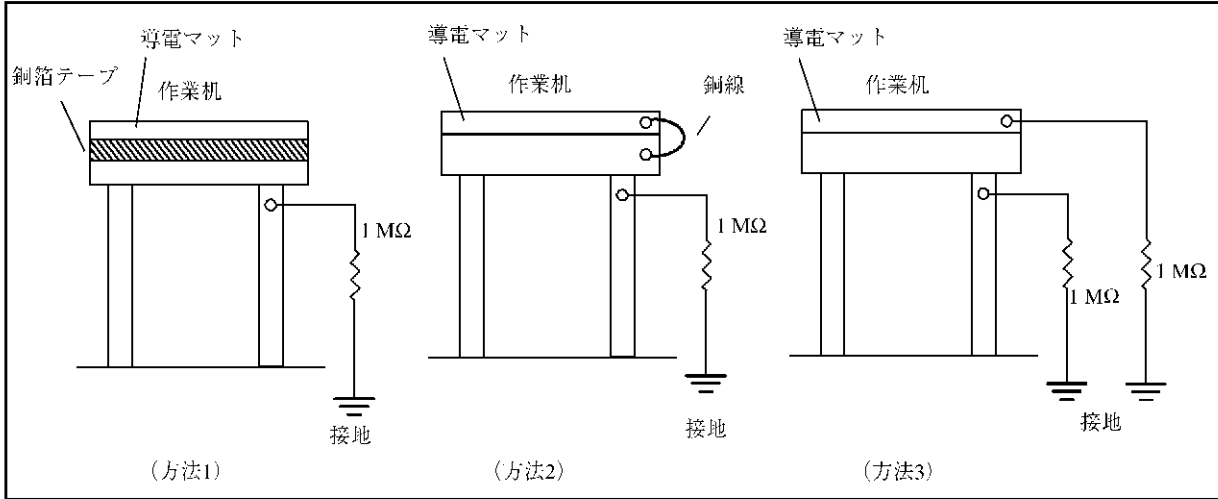


図 3-4 作業台の静電気対策



### 3.3 アクセサリの接続

本器を操作するために必要なアクセサリの接続について説明します。

#### 3.3.1 キーボードとマウスの接続

キーボードとマウスは、フロント・パネルの専用コネクタ（KEYBOARD コネクタと MOUSE コネクタ）へ接続します。キーボードとマウスの接続は、電源投入前に行ってください。

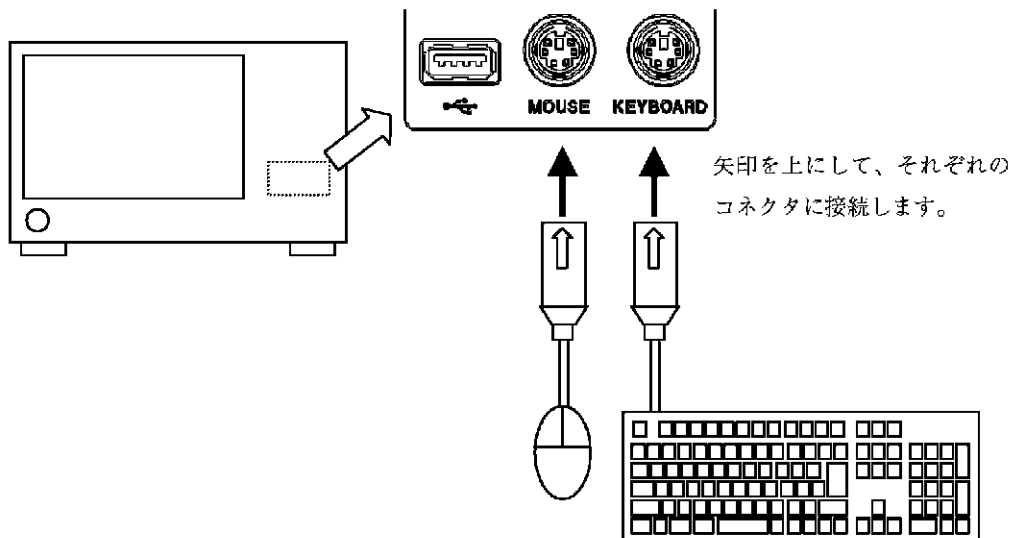


図 3-5 キーボードとマウスの接続

---

### 3.4 電源について

#### 3.4 電源について

電源仕様と電源ケーブルの接続について説明します。

##### 3.4.1 供給電源の確認

本器の電源仕様は、表 3-3 のとおりです。本器に供給される電源が、表 3-3 の条件を満たすことを確認して下さい。

表 3-3 電源仕様

	AC100 V 系動作時	AC200 V 系動作時	備考
入力電圧範囲	90 V-132 V	198 V-250 V	AC100 V 系 / AC200 V 系は 自動切り替え
周波数範囲	47 Hz-63 Hz		
消費電力	450 VA 以下		

---

**警告** 必ず本器の電源仕様を満足する電源を供給して下さい。満足しない場合、本器が破損する恐れがあります。

---

### 3.4.2 電源ケーブルの接続

本器には、接地線を持った3芯の電源ケーブルが付属されています。感電事故を防ぐため、付属の電源ケーブルを使い、3極電源コンセントを介して必ず本器を接地して下さい。

1. 付属の電源ケーブルに損傷がないか確認して下さい。

---

**警告** 損傷のある電源ケーブルは絶対に使用しないで下さい。感電の恐れがあります。

---

2. 本器背面パネルのAC電源コネクタと、保護接地端子を備えた3極電源コンセントを付属の電源ケーブルで接続します（図3-6を参照）。

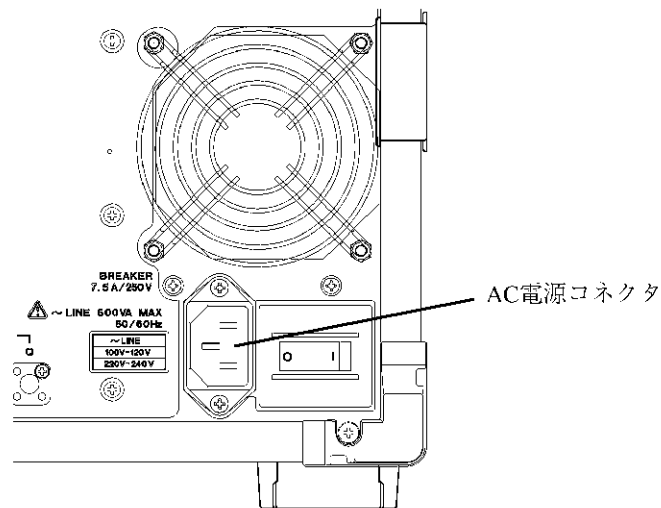


図 3-6 電源ケーブルの接続

---

**警告**

1. 電源電圧に応じた電源ケーブルを使用して下さい。海外で使用する場合は、それぞれの国の安全規格に適合した電源ケーブルを使用して下さい（「本器を安全に取り扱うための注意事項」を参照）。
  2. 電源ケーブルは、感電からの保護のため、保護接地端子を備えた3極電源コンセントに接続して下さい。保護接地端子を備えていない延長コードを使用すると、保護接地が無効になります。
-

## 3.5 動作チェック

## 3.5 動作チェック

本器のオート・キャリブレーション機能を使用した簡単な動作確認について説明します。以下の手順に従って、本器が正常に動作することを確認して下さい。

## 本器の起動

1. 「3.4.2 電源ケーブルの接続」に従って電源ケーブルを接続します。
2. リア・パネルの電源ブレーカを ON にします。  
電源ブレーカを ON にしたあと、3 秒以上待って下さい。
3. **POWER** スイッチを押して、電源を入れます。

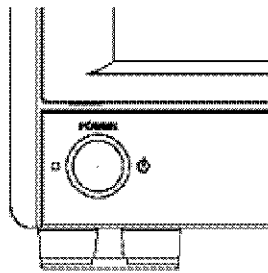


図 3-7 POWER スイッチ

## 注意

1. 電源ケーブルを引き抜くなどして動作中に突然電源を切ると、ハード・ディスク・ドライブが故障する場合があります。故障しなかった場合でも、ハード・ディスク・ドライブやデータに破損の可能性があるため、次回起動時に Scandisk が実行されます。
2. Scandisk について  
シャット・ダウンしないで電源を切った場合、Scandisk が自動的に実行されます。Scandisk は破損の有無を確認しているため、絶対に中断しないで下さい。Scandisk で破損が発見された場合は、表示メッセージに従って適切な操作をして下さい。Scandisk が終了すると本器のソフトウェアが自動的に起動します。
4. パワー・オン・ダイアグノスティック・プログラムが起動し、自己診断を行います。  
自己診断には、約 1 分要します。
5. 自己診断で、本器に異常がなければ図 3-8 に示す初期画面が表示されます。初期画面表示は、前回電源を切るときの設定状態により図 3-8 と異なります。

メモ 自己診断でエラー・メッセージが表示された場合、R3681 シリーズ・ユーザーズ・ガイド 第 8 章「メンテナンス」を参照して下さい。

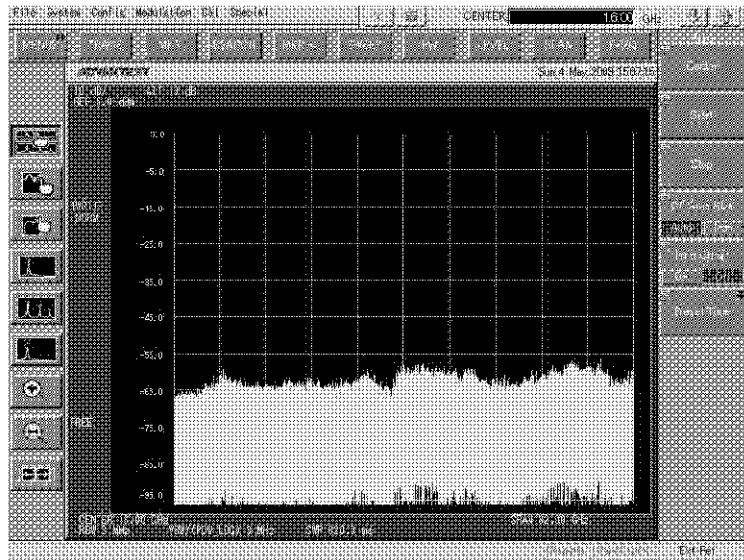


図 3-8 初期設定画面

## オート・キャリブレーションの実行

## 6. &lt;R3681 の場合&gt;

本体標準付属品の SMA (f)-SMA (f) アダプタ、SMA (m)-BNC (f) アダプタ、入力ケーブル (A01261-30) を使用し、図 3-9 のように接続します。

## &lt;R3671 の場合&gt;

標準付属品の N (m)-BNC (f) アダプタと入力ケーブル (A01261-30) を使用し、図 3-9 のように接続します。

3.5 動作チェック

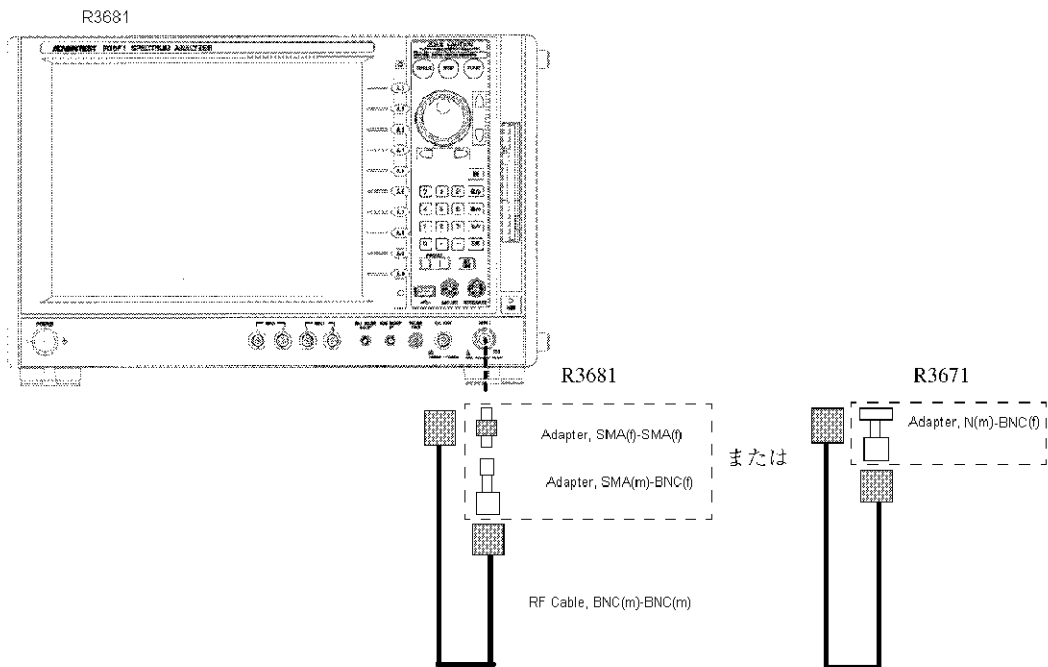


図 3-9 オート・キャリブレーション

**重要** オート・キャリブレーションを実行するために最低約 30 分間のウォーミング・アップをして下さい。オート・キャリブレーションの詳細な使用方法については、R3681 シリーズ・ユーザーズ・ガイド 第 4 章「4.3.1 オート・キャリブレーション」を参照して下さい。

7. 本器のメニュー・バーの **[Cal]** ボタンをタッチし、ドロップ・ダウン・メニューの **[SA Cal]** を選択します。
8. オート・キャリブレーションが実行されます。  
オート・キャリブレーション完了には、約 1 分要します。
9. オート・キャリブレーションの結果にエラー・メッセージが表示されないことを確認します。

**メモ** オート・キャリブレーションでエラー・メッセージが表示された場合、R3681 シリーズ・ユーザーズ・ガイド 第 8 章「メンテナンス」を参照して下さい。

電源の遮断

10. 本器の **POWER** スイッチを押します。  
システム終了処理を行い、自動的に電源が切れます。

## 4. 測定例

4 章では Two Tone と AM/AM AM/PM について具体的な測定例を通して、本オプションの使い方を説明します。

### 4.1 Two Tone 測定例

この測定例では外部 SG を使って 2 つの異なる周波数の正弦波を加算した信号に対する IM (Intermodulation: 相互変調) を評価します。

被測定信号の仕様

信号 1:	
信号の種類:	連続波
中心周波数:	999 MHz
レベル:	-10 dBm
信号 2:	
信号の種類:	連続波
中心周波数:	1001 MHz
レベル:	-10 dBm

測定条件

Center Frequency:	1000 MHz
Level:	Auto Level Set
Trigger Source:	Free Run
INPUT:	IQ Inverse OFF
MEAS MODE:	Two Tone
Two Tone Parameters	ダイアログ・ボックスは以下のように設定
Freq Separation:	2 MHz
Average:	OFF
Signal Source:	External
Setup for External Signal Source:	Signal: CW

Single 測定

## 4.1 Two Tone 測定例

## 機器の接続

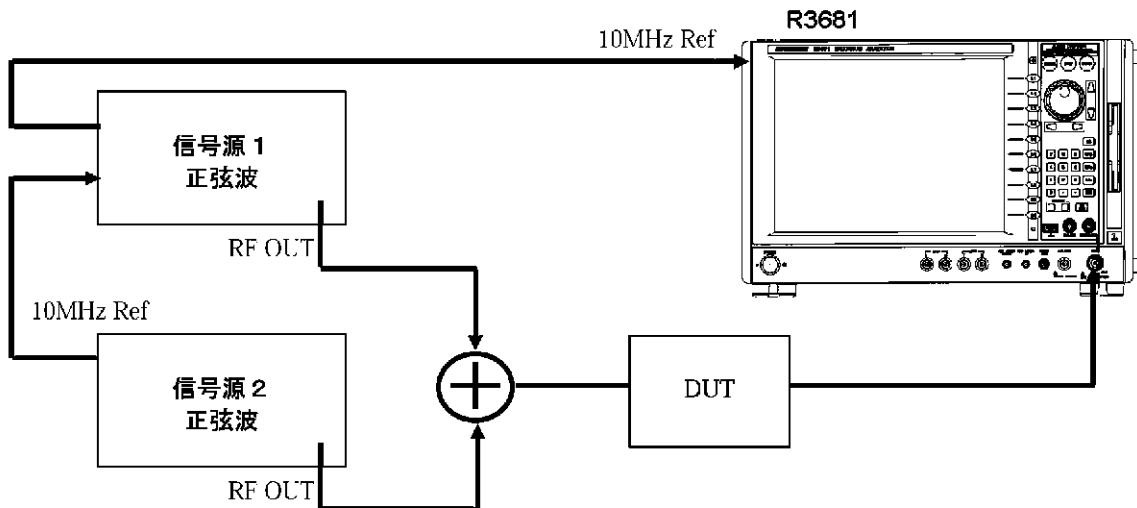


図 4-1 外部 SG2 台を使った Two Tone 測定接続図

## 測定条件の設定

1. メニュー・バーの **[Config]** をタッチし、**[Non-Linear Analysis]** を選択します。
2. ファンクション・バーの **{MEAS MODE}** ボタンをタッチします。
3. ソフト・メニュー・バーの **Two Tone** キーをタッチします。
4. ファンクション・バーの **{FREQ}** ボタンをタッチします。
5. ソフト・メニュー・バーの **Center** キーをタッチします。
6. テンキーで、**[1]**、**[G/p]** と押します。  
中心周波数が、1000 MHz (1 GHz) に設定されます。
7. ファンクション・バーの **{LEVEL}** ボタンをタッチします。
8. ソフト・メニュー・バーの **Auto Level Set** キーをタッチします。  
Ref Level が最適値に自動設定されます。
9. ファンクション・バーの **{TRIGGER}** ボタンをタッチします。
10. ソフト・メニュー・バーの **Trigger Source** キーをタッチします。
11. ソフト・メニュー・バーの **Free Run** キーをタッチします。
12. ファンクション・バーの **{INPUT}** ボタンをタッチします。
13. ソフト・メニュー・バーの **IQ Inverse** キーをタッチして Off にします。



14. ファンクション・バーの {MEAS CONTROL} ボタンをタッチします。
15. ソフト・メニュー・バーの **Two Tone Parameters** キーをタッチします。  
[Two Tone Parameters Setup] ダイアログ・ボックスが表示されます。

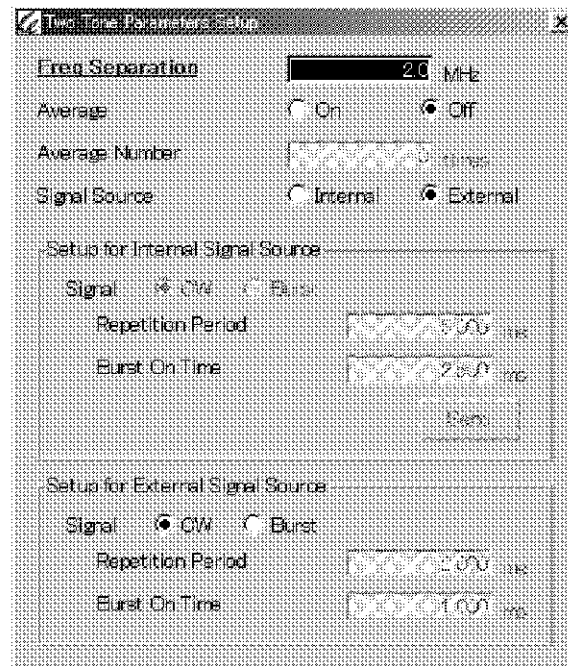


図 4-2 [Two Tone Parameters Setup] ダイアログ・ボックス

16. 2 信号の周波数間隔を設定します。  
[Two Tone Parameters Setup] ダイアログ・ボックスの [Freq Separation] テキスト・ボックスをタッチします。設定値が白黒反転表示されます。このときテンキーを **2**、**M/n** と押すか、2 MHz という数値が表示されるまでデータノブを回すか、いずれかの方法で数値を入力します。
17. [Two Tone Parameters Setup] ダイアログ・ボックスの [Average] オプション・ボタンの [Off] をタッチします。
18. [Two Tone Parameters Setup] ダイアログ・ボックスの [Signal Source] オプション・ボタンの [External] をタッチします。
19. [Two Tone Parameters Setup] ダイアログ・ボックスの [Setup for External Signal Source] 枠内の [Signal] オプション・ボタンの [CW] をタッチします。
20. [Two Tone Parameters Setup] ダイアログ・ボックスのクローズ・ボタン **X** をタッチし、ダイアログ・ボックスを閉じます。
21. ソフト・メニュー・バーの **Single Meas** キーをタッチします。  
測定が実行され、測定結果が画面に表示されます。

4.1 Two Tone 測定例

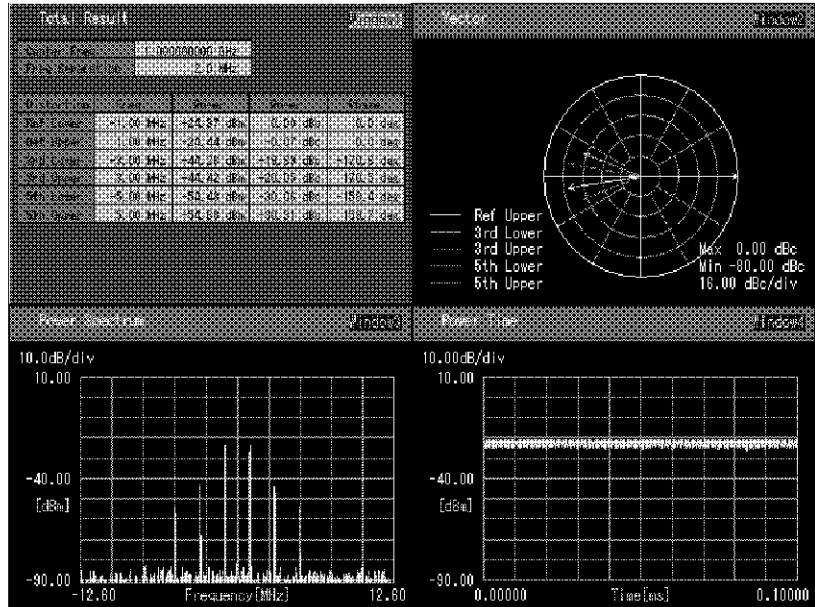


図 4-3 Two Tone 測定の実行結果

## 4.2 AM/AM AM/PM 測定例

DUT の入力レベルに対する出力レベル比 (AM/AM) や、DUT の入力レベルに対する出力での位相変化 (AM/PM) を測定します。

この測定例では外部 SG を使用します。

被測定信号の仕様

被測定信号 :	3GPP Single Carrier
中心周波数 :	2140 MHz
レベル :	-10 dBm

測定条件

Center Frequency:	2140 MHz
Level:	Auto Level Set
Trigger Source:	Ext1
INPUT:	IQ Inverse OFF
MEAS MODE:	AM/AM AM/PM
AM/AM AM/PM Parameters	ダイアログ・ボックスは以下のように設定
Average:	OFF
AM/AM Calculate Region:	-20 dB
AM/PM Calculate Region:	-20 dB
Signal:	CW

Single 測定

4.2 AM/AM AM/PM 測定例

機器の接続

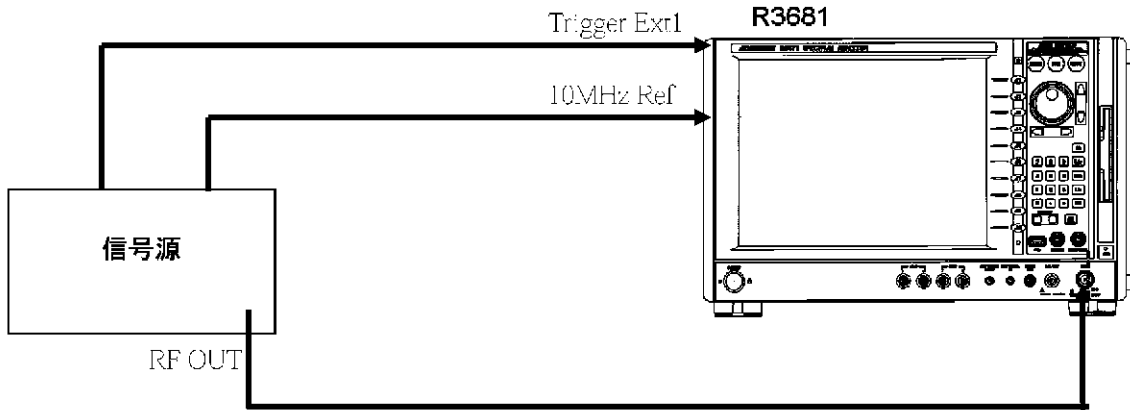


図 4-4 Reference データ取得時の接続図

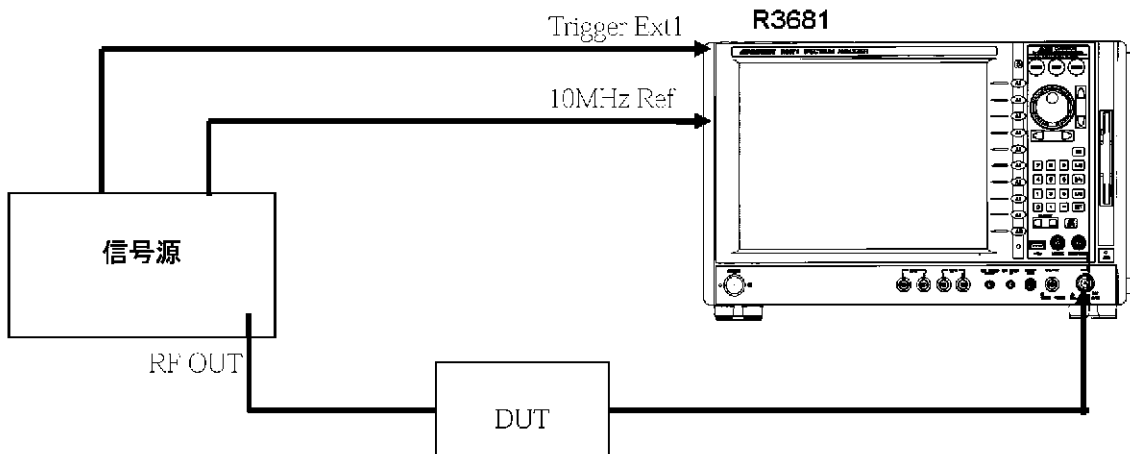


図 4-5 測定実行時の接続図

測定条件の設定

1. 機器の接続を図 4-4 Reference データ取得時の接続図のように、DUT を接続しない状態で本体と信号源を接続します。
2. メニュー・バーの **[Config]** をタッチし、**[Non-Linear Analysis]** を選択します。
3. ファンクション・バーの **{MEAS MODE}** ボタンをタッチします。
4. ソフト・メニュー・バーの **AM/AM AM/PM** キーをタッチします。
5. ファンクション・バーの **{FREQ}** ボタンをタッチします。
6. ソフト・メニュー・バーの **Center** キーをタッチします。

7. テンキーで、**[2]**、**[1]**、**[4]**、**[0]**、**[M/n]**と押します。  
中心周波数が、2140 MHz に設定されます。
8. ファンクション・バーの **{LEVEL}** ボタンをタッチします。
9. ソフト・メニュー・バーの **Auto Level Set** キーをタッチします。  
Ref Level が最適値に自動設定されます。
10. ファンクション・バーの **{TRIGGER}** ボタンをタッチします。
11. ソフト・メニュー・バーの **Trigger Source** キーをタッチします。
12. ソフト・メニュー・バーの **Ext 1** キーをタッチします。
13. ファンクション・バーの **{INPUT}** ボタンをタッチします。
14. ソフト・メニュー・バーの **IQ Inverse** キーをタッチして Off にします。
15. ファンクション・バーの **{MEAS CONTROL}** ボタンをタッチします。
16. ソフト・メニュー・バーの **AM/AM AM/PM Parameters** キーをタッチします。  
**[AM/AM AM/PM Parameters Setup]** ダイアログ・ボックスが表示されます。

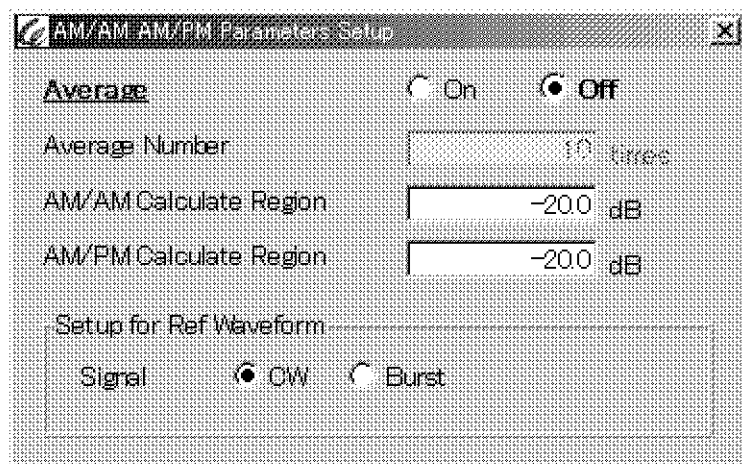


図 4-6 [AM/AM AM/PM Parameters Setup] ダイアログ・ボックス

17. [AM/AM AM/PM Parameters Setup] ダイアログ・ボックスの [Average] オプション・ボタンの [Off] をタッチします。
18. [AM/AM AM/PM Parameters Setup] ダイアログ・ボックスの [AM/AM Calculate Region] のテキスト・ボックスをタッチします。設定値が白黒反転表示されます。このときテンキーを **[-]**、**[2]**、**[0]**、**[ENT]** と押すか、**-20 dB** という数値が表示されるまでデータノブを回すか、いずれかの方法で数値を入力します。

## 4.2 AM/AM AM/PM 測定例

19. **[AM/AM AM/PM Parameters Setup]** ダイアログ・ボックスの **[AM/PM Calculate Region]** のテキスト・ボックスをタッチします。設定値が白黒反転表示されます。このときテンキーを **[.]**、**[2]**、**[0]**、**[ENT]** と押すか、-20 dB という数値が表示されるまでデータノブを回すか、いずれかの方法で数値を入力します。
20. **[AM/AM AM/PM Parameters Setup]** ダイアログ・ボックスの **[Setup for Ref Waveform]** 枠内の **[Signal]** オプション・ボタンの **[CW]** をタッチします。
21. **[AM/AM AM/PM Parameters Setup]** ダイアログ・ボックスのクローズ・ボタン **[X]** をタッチし、ダイアログ・ボックスを閉じます。
22. **Capture Ref Data** キーをタッチします。  
Reference データを取得します。
23. 機器の接続を図 4-5 測定実行時の接続図のように DUT と本体と信号源を接続します。
24. ファンクション・バーの **{LEVEL}** ボタンをタッチします。
25. ソフト・メニュー・バーの **Auto Level Set** キーをタッチします。  
Ref Level が最適値に自動設定されます。
26. ファンクション・バーの **{MEAS CONTROL}** ボタンをタッチします。
27. ソフト・メニュー・バーの **Single Meas** キーをタッチします。  
測定が実行され、測定結果が画面に表示されます。

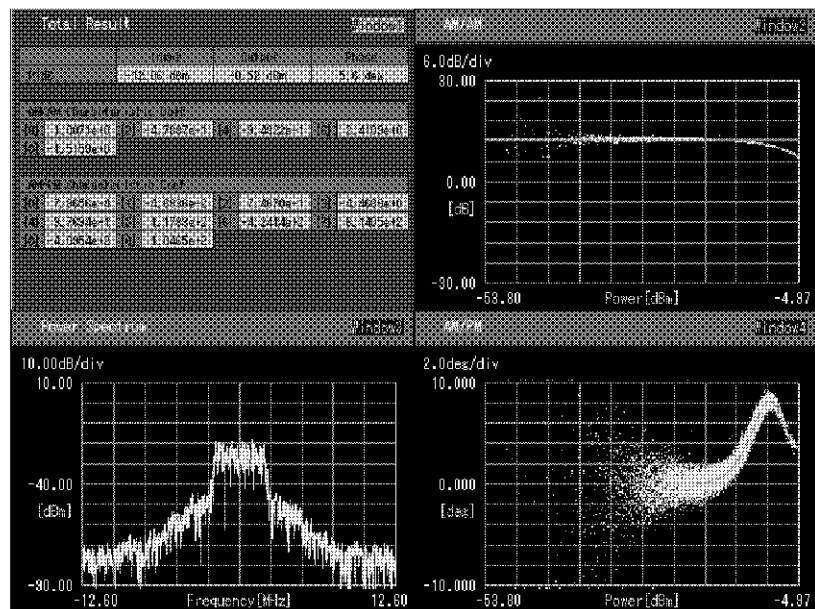



図 4-7 AM/AM AM/PM 測定の実行結果

## 5. メニュー・マップ、機能説明

この章では R3681AP+83 AMP 測定オプション（以下、本オプション）でタッチ・スクリーン上に表示されるソフト・キーの構成と機能を説明します。

### メモ

- [...] は、メニュー名、キー名、ダイアログ・ボックス内の項目名、ボタン名、リストやメニュー中の選択項目はすべて、その名称を “[ ] ” でくくり表します。
- {...} はファンクション・バー上のファンクション・ボタンを表します。
-  は、ソフト・メニュー・バー上のソフト・キーを表します。
- ダイアログ・ボックスは、破線で囲み表します。
- 操作は、タッチ・スクリーンを使用することを前提とし、ボタン、キーを押すことを“タッチ”と表現します。

### 5.1 メニュー・インデックス

操作キー	参照ページ	操作キー	参照ページ
[3rd Lower] .....	5-9, 5-10	[Send] .....	5-4, 5-5
[3rd Upper] .....	5-9, 5-10	[Setup for External Signal Source] .....	5-4, 5-5
[5th Lower] .....	5-9, 5-10	[Setup for Internal Signal Source] .....	5-4, 5-5
[5th Upper] .....	5-9, 5-10	[Setup for Ref Waveform] .....	5-4, 5-6
[AM/AM Calculate Region] .....	5-4, 5-6	[Signal Source] .....	5-4, 5-5
[AM/AM Trace] .....	5-9, 5-11	[Signal] .....	5-4, 5-5, 5-6
[AM/AM] .....	5-9, 5-10	[Total Result] .....	5-9, 5-10
[AM/PM Calculate Region] .....	5-4, 5-6	[Trace Type] .....	5-9, 5-11
[AM/PM Trace] .....	5-9, 5-11	[Vector Trace] .....	5-9, 5-10
[AM/PM] .....	5-9, 5-10	[Vector] .....	5-9
[Average Number] .....	5-4, 5-5, 5-6	{DISPLAY} .....	5-9
[Average] .....	5-4, 5-5	{FREQ} .....	5-17
[Burst On Time] .....	5-4, 5-5	{INPUT} .....	5-14
[CCDF Trace] .....	5-9, 5-11	{LEVEL} .....	5-16
[CCDF] .....	5-9, 5-10	{MARKER} .....	5-13
[Characteristic Curve] .....	5-9, 5-11	{MEAS CONTROL} .....	5-4
[Format] .....	5-9, 5-10	{MEAS MODE} .....	5-7
[Freq Separation] .....	5-4	{SCALE} .....	5-12
[Input-Output/Gain Compression] .....	5-9	{TRIGGER} .....	5-15
[Meas Data] .....	5-9, 5-11	AM/AM AM/PM .....	5-7
[No Display] .....	5-9, 5-10, 5-11	AM/AM AM/PM Interlock On/Off .....	5-12, 5-13
[Power Spectrum] .....	5-9, 5-10	AM/AM AM/PM Parameters .....	5-4, 5-5
[Power Time] .....	5-9, 5-10	AM/AM AM/PM Window .....	5-9, 5-10
[Ref Upper] .....	5-9, 5-10	ATT Auto/Man .....	5-16
[Reference Curve] .....	5-9, 5-11	Auto Level Set .....	5-16
[Reference Line] .....	5-9, 5-11	Capture Ref Data .....	5-4, 5-6
[Repetition Period] .....	5-4, 5-5	CCDF .....	5-7
		CCDF Gate On/Off .....	5-7

## 5.1 メニュー・インデックス

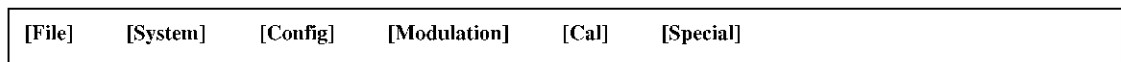
CCDF RBW .....	5-7
Center .....	5-17
Delta Marker On/Off .....	5-13
Dual Display .....	5-9, 5-11
Ext1 .....	5-15
Ext2 .....	5-15
Free Run .....	5-15
Freq Offset On/Off .....	5-17
Gaussian On/Off .....	5-7
IF Power .....	5-15
IQ Inverse On/Off .....	5-14
Link .....	5-15
Marker .....	5-13
Marker OFF .....	5-13
Marker Trace 1/2/3/4/5 .....	5-13
Meas Sample .....	5-7
Min ATT On/Off .....	5-16
Peak Search .....	5-13
Preamp On/Off .....	5-16
Quad Display .....	5-9, 5-11
Ref Level .....	5-16
Ref Offset On/Off .....	5-16
Repeat Meas .....	5-4
Return .....	5-7, 5-8, 5-15
Single Display .....	5-9, 5-11
Single Meas .....	5-4
Trace Write On/Off .....	5-7
Trigger Delay .....	5-15
Trigger Slope .....	5-15
Trigger Source .....	5-15
Two Tone .....	5-7
Two Tone Parameters .....	5-4
Two Tone Window .....	5-9
Vector Max .....	5-12
Vector Min .....	5-12
X Scale Left .....	5-12
X Scale Max .....	5-7
X Scale Right .....	5-12
Y Scale Lower .....	5-12
Y Scale Upper .....	5-12



## 5.2 通信システムの切り替え

本オプションを選択するには、メニュー・バーの **[Config]** から **[Non-Linear Analysis]** を選択します。

本オプションのメニュー・バーは、以下のようになっています。



メニュー・バーは Spectrum Analyzer と共通ですが、Non-Linear Analysis 選択時には、File の下に、Save Meas Data が追加されます。

**{Save Meas Data}** 選択されている表示画面のデータをセーブします。

## 5.3 ファンクション・バー

ここでは、ファンクション・バーに表示される各ファンクション・ボタンの機能について説明します。本オプションのファンクション・ボタンは、以下のように構成されています。



ファンクション・バーのファンクション・ボタンをタッチすると、関連するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。

## 5.4 ソフト・メニュー・バー

画面右横にあるソフト・キーが表示される部分をソフト・メニュー・バーと呼びます。

ファンクション・バー上のボタンをタッチすると関連するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。

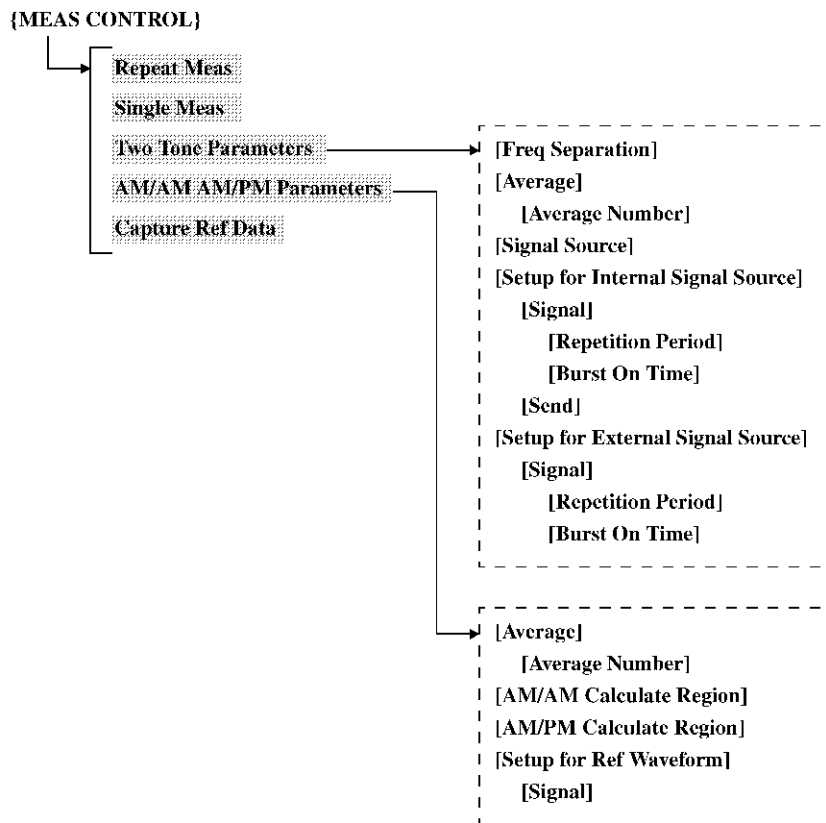
5.5 キー別機能説明

5.5 キー別機能説明

各キーごとに機能の説明をします。

5.5.1 {MEAS CONTROL}

{MEAS CONTROL} ボタンをタッチすると、測定信号の Reference データ取り込みと解析、および測定条件の設定に関するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。



**Repeat Meas**

**Repeat Meas** ボタンをタッチすると、測定を繰り返し実行します。

**Single Meas**

**Single Meas** ボタンをタッチすると、測定を一回実行します。

**Two Tone Parameters**

**Two Tone Parameters** ボタンをタッチすると、2 信号帯み測定の測定条件を設定するためのダイアログ・ボックスが表示されますこの機能は {MEAS MODE} で **Two Tone** が選択されているときのみ有効です。

**[Freq Separation]**

入力する 2 信号の周波数間隔を入力します。

<b>[Average]</b>	複数回測定を繰り返して測定値の平均値を求めるモードを切り替えます。 On: 測定値の平均値を求めます。 Off: 1測定がそのまま測定結果となります。
<b>[Average Number]</b>	測定平均回数を指定します。
<b>[Signal Source]</b>	測定信号を指定します。 Internal: 内部信号源からの信号を指定します。 External: 外部信号源からの信号を指定します。

---

メモ Internal は OPT71/72 搭載後、本オプションのバージョン・アップを行わないと指定できません。

---

<b>[Setup for Internal Signal Source]</b>	<b>[Signal Source]</b> で Internal を指定した場合に設定します。
<b>[Signal]</b>	被測定信号の種類を選択します。 CW: 連続波を指定します。 Burst: バースト波を指定します。
<b>[Repetition Period]</b>	<b>[Signal]</b> が Burst のときに、バースト周期を設定します。
<b>[Burst On Time]</b>	<b>[Signal]</b> が Burst のときに、バースト On 区間を設定します。
<b>[Send]</b>	<b>[Setup for Internal Signal Source]</b> 枠内の設定値から波形データを生成し、内部信号源へデータを送信します。
<b>[Setup for External Signal Source]</b>	<b>[Signal Source]</b> で External を指定した場合に設定します。
<b>[Signal]</b>	被測定信号の種類を選択します。 CW: 連続波を指定します。 Burst: バースト波を指定します。
<b>[Repetition Period]</b>	<b>[Signal]</b> が Burst のときに、バースト周期を設定します。
<b>[Burst On Time]</b>	<b>[Signal]</b> が Burst のときに、バースト On 区間を設定します。

#### **AM/AM AM/PM Parameters**

**AM/AM AM/PM Parameters** ボタンをタッチすると、AM/AM AM/PM 測定条件を設定するためのダイアログ・ボックスが表示されます。この機能は {MEAS MODE} で **AM/AM AM/PM** が選択されているときのみ有効です。

<b>[Average]</b>	複数回測定を繰り返して測定値の平均値を求めるモードを切り替えます。 On: 測定値の平均値を求めます。
------------------	--

5.5.1 {MEAS CONTROL}

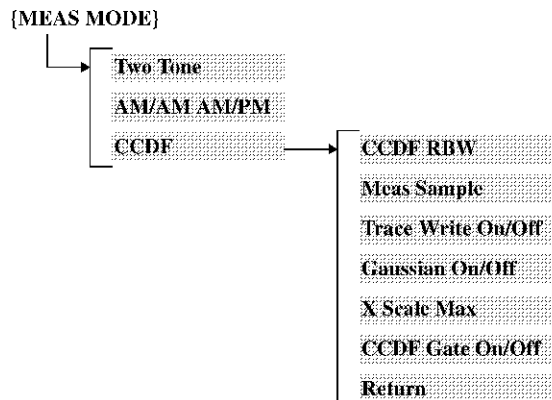
	Off: 1測定がそのまま測定結果となります。
[Average Number]	測定平均回数を指定します。
[AM/AM Calculate Region]	AM/AM 特性の解析対象となる範囲を設定します。
[AM/PM Calculate Region]	AM/PM 特性の解析対象となる範囲を設定します。
[Setup for Ref Waveform]	被測定信号の設定を行います。
[Signal]	被測定信号の種類を選択します。
	CW: 連続波を指定します
	Burst: バースト波を指定します。

**Capture Ref Data**

**Capture Ref Data** ボタンをタッチすると、被測定信号の Reference データ取得を開始します。データ取得が完了すると測定を実行することができます。この機能は、{MEAS MODE} で **AM/AM** **AM/PM** が選択されているときのみ有効です。

## 5.5.2 {MEAS MODE}

{MEAS MODE} ボタンをタッチすると、解析パラメータの設定に関するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。



### Two Tone

周波数の異なる 2 信号による歪みを測定します。

### AM/AM AM/PM

DUT の入力レベルに対する出力での振幅位相の変化を測定し、AM/AM 特性および AM/PM 特性を表示します。

### CCDF

CCDF メニューを表示します。  
CCDF 測定の画面に切り替わります。

### CCDF RBW

RBW の設定をします。  
RBW は 100 kHz – 20 MHz (1, 2, 3, 5 シーケンス) で設定することができます。

### Meas Sample

測定サンプル数の設定をします。

### Trace Write On/Off

基準波形表示の On と Off を切り替えます。

On: 現在表示されている波形を基準波形として取り込んで表示します。

Off: 基準波形を消去します。

### Gaussian On/Off

理想ガウシアン・ノイズ波形表示の On と Off を切り替えます。

On: 理想ガウシアン・ノイズ波形を表示します。

Off: 理想ガウシアン・ノイズ波形を消去します。

### X Scale Max

波形表示の横軸最大値を設定します。

### CCDF Gate On/Off

CCDF 測定のゲート機能の On と Off を切り替えます。

On: スレシヨルド・レベルを設定し、入力信号がスレシヨルド・レベル以上の区間で CCDF 測定を行います。

5.5.2 {MEAS MODE}

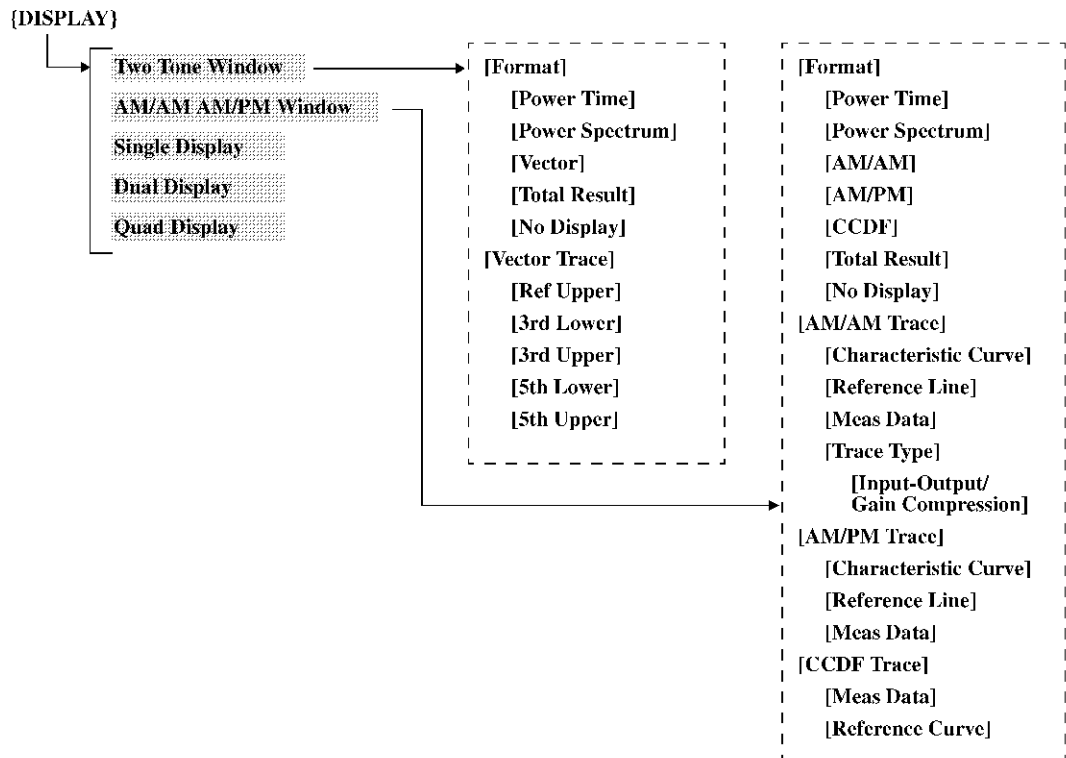
**Return**

Off: CCDF測定のゲート機能をOffします。

1つ上の階層メニューに戻ります。

### 5.5.3 {DISPLAY}

{DISPLAY} ボタンをタッチすると、表示画面の設定に関するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。



#### Two Tone Window

Two Tone 結果表示画面に対して、アクティブウィンドウの表示結果の種類を設定するダイアログ・ボックスを表示します。

表示結果の Format を選択し、さらに、選択した Format が Vector の場合は詳細に設定します。

#### [Format]

表示結果の種類を選択します。

#### [Power Time]

時間波形データを表示します。バースト状態の確認が可能です。グラフの縦軸は電力 (dBm)、横軸は時間 (ms) です。

#### [Power Spectrum]

スペクトラムを表示します。グラフの縦軸は電力 (dBm)、横軸は周波数 (Hz) です。

#### [Vector]

2 信号および信号歪みの位相と振幅 (電力を dBc 表示する) をベクトル・グラフに表示します。

#### [Total Result]

測定結果の数値データを表示します。

Center Freq:

中心周波数

## 5.5.3 {DISPLAY}

Freq Separation:

2信号の周波数間隔

信号データ:

Ref Lower, Ref Upper, 3rd Lower, 3rd Upper, 5th Lower, 5th Upperの各信号について、Freq, Power(dBm), Power(dBc), Phase(deg)を表示します。

[No Display]

何も表示しません。

[Vector Trace]

[Format] が Vector であるときに、表示の詳細を設定します。

[Ref Upper]

入力する2信号のうちの周波数の高い信号のベクトル表示を ON/OFF します。

[3rd Lower]

入力する2信号による信号歪みで、Lower 側に現れる3次歪みのベクトル表示を On/Off します。

[3rd Upper]

入力する2信号による信号歪みで、Upper 側に現れる3次歪みのベクトル表示を On/Off します。

[5th Lower]

入力する2信号による、信号歪みで Lower 側に現れる5次歪みのベクトル表示を On/Off します。

[5th Upper]

入力する2信号による、信号歪みで Upper 側に現れる5次歪みのベクトル表示を On/Off します。

#### AM/AM AM/PM Window

AM/AM AM/PM 結果表示画面に対して、アクティブウィンドウの表示結果の種類を設定するダイアログ・ボックスを表示します。表示結果の Format を選択し、さらに、選択した Format を、AM/AM, AM/PM または CCDF によって、詳細に設定します。

[Format]

表示結果の種類を選択します。

[Power Time]

時間波形データを表示します。バースト状態の確認が可能です。グラフの縦軸は電力 (dBm)、横軸は時間 (ms) です。

[Power Spectrum]

スペクトラムを表示します。グラフの縦軸は電力 (dBm)、横軸は周波数 (Hz) です。

[AM/AM]

変調信号を利用して、DUT の入力レベルに対する出力での振幅変化をグラフ表示します。グラフの縦軸は [AM/AM Trace] 内の設定により変わります。横軸は入力レベル (dBm) です。

[AM/PM]

変調信号を利用して、DUT の入力レベルに対する出力での位相変化をグラフ表示します。グラフの縦軸は位相変化 (deg)、横軸は入力レベル (dBm) です。

[CCDF]

周波数幅 20 MHz での CCDF 測定を行います。データ数は固定での測定になります。

[Total Result]

測定結果の数値データを表示します。

P1dB: P1dB において、入力レベル (dBm)、出力レベル (dBm)、位相変化(deg)を表示します。



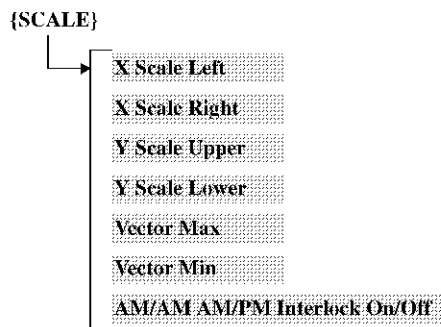
	AM/AM Characteristic Coef: AM/AM の非線形特性を多項式近似したときの各係数を表しています。
	AM/PM Characteristic Coef: AM/PM の非線形特性を多項式近似したときの各係数を表しています。
<b>[No Display]</b>	何も表示しません。
<b>[AM/AM Trace]</b>	<b>[Format]</b> が AM/AM であるときの詳細設定を行います。
<b>[Characteristic Curve]</b>	測定結果から算出される AM/AM 変換特性曲線の表示を ON/OFF します。
<b>[Reference Line]</b>	リファレンス・ラインの表示を On/Off します。
<b>[Meas Data]</b>	測定結果の表示を On/Off します。
<b>[Trace Type]</b>	グラフの表示対象を選択します。Y 軸データが切り替わります。
	Input-Output: 測定レベル(dBm)で表示します。
	Gain Compression: 入力レベルに対する測定レベルの比(dB)で表示します。
<b>[AM/PM Trace]</b>	<b>[Format]</b> が AM/PM であるときの、詳細設定を行います。
<b>[Characteristic Curve]</b>	測定結果から算出される AM/PM 変換特性曲線の表示を ON/OFF します。
<b>[Reference Line]</b>	リファレンス・ラインの表示を On/Off します。
<b>[Meas Data]</b>	測定結果の表示を On/Off します。
<b>[CCDF Trace]</b>	<b>[Format]</b> が CCDF であるときの、詳細設定を行います。
<b>[Meas Data]</b>	測定結果のトレース表示を On/Off します。
<b>[Reference Curve]</b>	リファレンス曲線の表示を On/Off します。
<b>Single Display</b>	1 画面表示を選択します。
<b>Dual Display</b>	2 画面表示を選択します。
<b>Quad Display</b>	4 画面表示を選択します。

## 5.5.4 {SCALE}

## 5.5.4 {SCALE}

{SCALE} ボタンをタッチすると、アクティブとなっている表示ウィンドウのスケール設定に関するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。

この機能はグラフのないウィンドウがアクティブとなっている場合は機能しません。

**X Scale Left**

X 軸の最小値を設定します。  
Power Time グラフまたは Vector グラフは無効です。

**X Scale Right**

X 軸の最大値を設定します。  
Power Time グラフまたは Vector グラフは無効です。

**Y Scale Upper**

Y 軸の最大値を設定します。  
Vector グラフは無効です。

**Y Scale Lower**

Y 軸の最小値を設定します。  
Vector グラフは無効です。

**Vector Max**

Vector グラフの最大値を設定します。  
その他のグラフでは無効です。

**Vector Min**

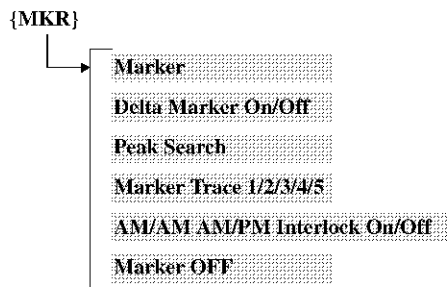
Vector グラフの最小値を設定します。  
その他のグラフでは無効です。

**AM/AM AM/PM Interlock On/Off**

AM/AM グラフと AM/PM グラフの X-Scale の設定を同期させます。AM/AM グラフおよび AM/PM グラフで有効です。

### 5.5.5 {MKR}

{MKR} ボタンをタッチすると、マーカの設定に関するソフト・キーがサイド・メニュー・バーに表示されます。アクティブなウィンドウのグラフの種類によって有効になる機能が異なります。また、グラフ以外のウィンドウがアクティブの場合や、未測定時でグラフ・データがない状態にはこれらの機能は使用できません。



#### Marker

ノーマル・マーカ位置の X 軸位置を設定します。

#### Delta Marker On/Off

デルタ・マーカ表示機能の On と Off を切り替えます。

On: デルタ・マーカをノーマル・マーカと同じ位置に表示します。ノーマル・マーカとの相対値 (EVM など測定値) がマーカ・エリアに表示されます。

Off: デルタ・マーカの表示を消去します。

#### Peak Search

サーチ対象範囲内において、トレースの最大ピークにマーカを移動します。

#### Marker Trace 1/2/3/4/5

トレースが複数あるとき、ノーマル・マーカのトレース間移動を行います。マーカは、押すごとにトレース間を移動します。

#### AM/AM AM/PM Interlock On/Off

AM/AM グラフと AM/PM グラフのマーカの設定を同期させます。AM/AM グラフおよび AM/PM グラフで有効です。

#### Marker OFF

ノーマル・マーカの表示を消去します。

## 5.5.6 {INPUT}

### 5.5.6 {INPUT}

{INPUT} キーをタッチすると、測定器への入力形式の設定に関するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。



#### **IQ Inverse On/Off**

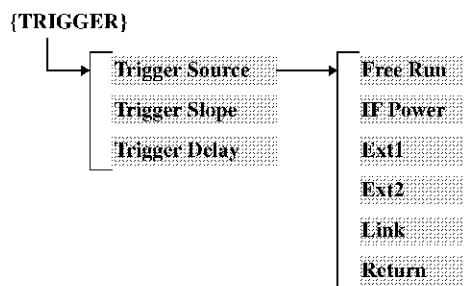
被測定信号の位相の反転、非反転を選択します。

On: 反転します。

Off: 反転しません。

## 5.5.7 {TRIGGER}

{TRIGGER} ボタンをタッチすると、トリガの設定に関するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。



### Trigger Source

**Trigger Source** ボタンをタッチするとトリガの設定に関するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。

### Free Run

測定器内部のタイミングで、データを取得し解析します。

### IF Power

IF 信号と同期して、データを取得し解析します。

### Ext1

EXT TRIG IN 1 コネクタに入力された外部信号と同期してデータを取り込み解析を行います。Ext1 では、スレシールド・レベルは TTL レベル固定です。

### Ext2

EXT TRIG IN 2 コネクタに入力された外部信号と同期してデータを取り込み解析を行います。Ext2 では、スレシールド・レベルを設定することができます。

### Link

オプション機能のトリガに同期して、データを取得し解析します。

### Return

ソフト・メニュー・バーのソフト・キー列が1つ前に戻ります。

---

メモ リンク・トリガの使い方は、リンク・トリガを使用するオプションのマニュアルを参照して下さい。

---

### Trigger Slope

トリガ・スロープの極性の + と - を切り替えます。**[IF Power]**、**[Ext1]**、**[Ext2]**、**[Link]** のときのみ有効です。

+: トリガの立ち上がりで掃引を開始します。

-: トリガの立ち下がりです掃引を開始します。

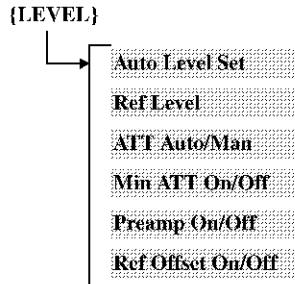
### Trigger Delay

遅延時間を設定します。トリガ発生から遅延時間が経過したタイミングで同期します。

## 5.5.8 {LEVEL}

## 5.5.8 {LEVEL}

{LEVEL} ボタンをタッチすると、アッテネータやリファレンス・レベルの設定等に関するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。

**Auto Level Set**

リファレンス・レベルを被測定信号に合わせて最適値に設定します。キーが押されたときに Auto Level Set が実行されます。

---

**重要** Auto Level Set 実行中は、被測定信号のレベルが一定でなければなりません。

---

**Ref Level**

リファレンス・レベルを設定します。

**ATT Auto/Man**

アッテネータを設定します。

**Auto:** リファレンス・レベルに基づいて、アッテネータの値を自動的に設定します。

**Man:** ATTの値を設定します。

**Min ATT On/Off**

Min ATT 機能の On と Off 設定します。

**On:** アッテネータの最小値を設定し、ATT Auto/Manualに関係なく制限を行います。

**Off:** Min ATTの制限を解除します。

**Preamp On/Off**

プリアンプ機能の On と Off を設定します。

**Ref Offset On/Off**

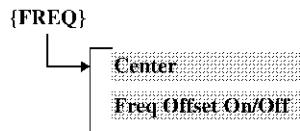
リファレンス・レベルのオフセット機能の On と Off を切り替えます。

**On:** オフセット値を設定し、リファレンス・レベルの表示のみをオフセット値分変更します。  
(リファレンス・レベル表示値=設定値+オフセット値)

**Off:** オフセット機能を解除します。

### 5.5.9 {FREQ}

{FREQ} ボタンをタッチすると、測定周波数の設定に関するソフト・キーがソフト・メニュー・バーに表示されます。



#### Center

測定信号の中心周波数を設定します。

---

**重要** 中心周波数は正しく設定して下さい。正確な測定ができなくなる恐れがあります。

---

#### Freq Offset On/Off

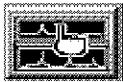
中心周波数のオフセット機能の On と Off を切り替えます。

On: オフセット値を設定し、中心周波数の表示のみをオフセット値分変更します。  
(中心周波数表示値=設定値+オフセット値)

Off: オフセット機能を解除します。

### 5.5.10 メジャーメント・ツール・バー

画面左側に縦列しているアイコンと、アイコン下部のソフト・キーの説明です。  
 波形範囲選択やアクティブウィンドウの選択等の機能がアイコンとして表示されています。  
 各アイコンをタッチすることで機能を使用できます。



: アクティブ・ウィンドウ切り替えアイコン :

画面分割されたウィンドウの1つをアクティブに切り替える時に使用します。



: 範囲指定アイコン (X 軸モード) :

波形が表示されているウィンドウ内で範囲を指定します。  
 アイコンをタッチした後、指定したい範囲の両側をタッチして下さい。



: 範囲指定アイコン (範囲モード) :

波形が表示されているウィンドウ内で範囲を指定します。  
 アイコンをタッチした後、指定したい範囲の左上と右下をタッチして下さい。



: ピーク・サーチ・アイコン :

範囲指定アイコンにより指定された範囲内の波形のピークをサーチしてマークが置かれます。



: 拡大アイコン :

ウィンドウに表示されている波形を拡大する時に使用します。  
 範囲指定アイコンで範囲を指定後、タッチするとその範囲が拡大します。



: 縮小アイコン :

ウィンドウに表示されている波形を縮小する時に使用します。



: スクロール・アイコン :

スケールを変えずに、表示位置をスクロールします。



## 6. SCPI コマンド・リファレンス

この章では本器の SCPI コマンド・リファレンスを記述します。

### 6.1 コマンド・リファレンスの書式

ここでは、本章で記述される各コマンドの説明の書式について記述します。

ここでの各コマンドの説明には、以下の項目が含まれています。

機能説明

SCPI コマンド

パラメータ

クエリ応答

- [機能説明]  
コマンドの使い方やコマンドを実行したときの本器の動作などが示されています。
  - [SCPI コマンド]  
「SCPI コマンド」には、コマンドを外部コントローラから本器に送る際の実際の書式が示されています。書式はコマンド部分とパラメータ部分で構成されます。コマンド部分とパラメータ部分の区切りはスペースです。  
パラメータが複数ある場合の各パラメータの区切りはカンマ (,) です。カンマとカンマの間にポイント 3 点 (...) の表示があるときは、その部分のパラメータが省略されて記述されています。  
たとえば、< 数値 1>,...,< 数値 4> と記述されている場合は、< 数値 1>,< 数値 2>,< 数値 3>,< 数値 4> の 4 個のパラメータが必要です。  
パラメータが < 文字列 >、< 文字列 1> などの文字列型の場合は、パラメータをダブル・クォーテーション・マーク (") で囲む必要があります。また、パラメータが < ブロック > の場合は、ブロック・フォーマットのデータを示します。  
書式中で小文字のアルファベットで書かれている部分は、省略可能であることを示しています。  
たとえば、":CALibration:CABLe" は ":CAL:CABL" と省略することができます。  
書式中で用いられている記号の定義は以下のとおりです。
- |      |  |
|------|--|
| <>   | コマンドを送る際に必要なパラメータを表します。  |
| []   | コマンドのオプションであることを表します。<br>省略可能です。   |
| {}   | 複数の項目から 1 つだけを選択する必要があることを示します。  |
|      | {..} 括弧内に記述され、複数項目の区切りとして使用します。  |
| <ch> | コマンド・ヘッダ中に記述され、コマンドの対象入力チャンネル番号を表します。<br>チャンネル番号は、省略可能で、記述する場合 1 を記述します。 |

## 6.1 コマンド・リファレンスの書式

<screen> コマンド・ヘッダ中に記述され、コマンドの対象スクリーン番号を表します。  
スクリーン番号は、省略可能で、記述する場合 1～4 までの値をとります。  
{1|2|3|4}

たとえば、以下の書式が示されていた場合は、“:CALC:CORR:EDEL:TIME 0.1” や  
“:CALCULATE1:SELECTED:CORR:EDEL:TIME 25E-3” などが有効な書式です。

書式 :CALCulate{1|2|3|4}:SELected]:CORRection:EDELay:TIME <数値>

- [パラメータ]

コマンドを送出するときに必要なパラメータを記述します。

パラメータが数値タイプ、文字（ストリングス）タイプのときは、<> でくくられます。

また、パラメータが選択タイプのときは、{} でくくられます。

本書では、以下のような書式にてパラメータのタイプを表記します。

<int> 数値データで NR1、NR2、NR3 の各フォーマットで入力でき、本器内部で整数に丸められる

<real> 数値データで NR1、NR2、NR3 の各フォーマットで入力でき、本器内部で有効な桁数の実数に丸められる

<bool> OFF|ON の文字列

<str> 文字列  
” または ’ で囲まれた英数記号を示す

<block> ブロック・データ型  
データの内容は 8 ビットのバイナリ・データ列

<type> 文字データで複数タイプからの選択

- [クエリ応答]

コマンドに対して“クエリ応答”がある場合、クエリ読み込み時のデータ・フォーマットを記述します。

各読み出しパラメータは、{} でくくられます。{} に縦棒(|)で区切られた複数の項目がある場合、それらのいずれか 1 つのみが読み出されることを示します。複数のパラメータが読み出される場合は、カンマ(,)で区切られて示されます。また、カンマとカンマの間にポイント 3 点(...)の記述がある場合、その部分のデータが省略されていることを示します。たとえば、{ 数値 1 }, ..., { 数値 4 } と記述されている場合は、{ 数値 1 }, { 数値 2 }, { 数値 3 }, { 数値 4 } の 4 パラメータが読み込まれることを表します。

また、読み出しパラメータが[]でくくられている場合には、測定結果等によって省略される可能性を持ったパラメータであることを表します。

単位を持った各読み出しパラメータには、“単位 :dBm”などの表記をし、そのパラメータ値のもつ単位を表現します。ただし、レベル単位である“dBm”の表記をしているパラメータに限り、その時点で選択されているレベル単位となることを意味しています。

## 6.2 共通コマンド

ここでは IEEE 共通コマンドについて説明します。

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
ステータス・バイトと 関連データのクリア	*CLS	–	–	
GET に対するマクロ定義	*DDT	<block>	<block>	*1
スタンダード・イベント・ ステータス・イネーブル・ レジスタの設定	*ESE	<int>	<int>	
スタンダード・イベント・ ステータス・レジスタの読み出し	*ESR?	–	<int>	
機器の問い合わせ	*IDN?	–	<str>	*2
実行中のすべての動作の 終了の通知	*OPC	–	1	
機器の設定のリコール	*RCL	<int>   POFF	–	*3
機器のリセット	*RST	–	–	
機器の設定のセーブ	*SAV	<int>	<int>	
サービス・リクエスト・ イネーブル・レジスタの設定	*SRE	<int>	<int>	
ステータス・バイト・レジスタの 読み出し	*STB?	–	<int>	
機器にトリガをかける	*TRG	–	–	
実行中の動作終了まで待機	*WAI	–	–	

\*1: マクロが未定義の状態では \*DDT? を実行すると、0 の長さのブロック・データ (#10) が返ります。

\*2: <str> は “メーカー名,機種名,シリアル番号,バージョン番号” というフォーマットで出力されます。

\*3: POFF は前回のパワー・オフ時の設定

## 6.3 測定コマンド

## 6.3 測定コマンド

## 6.3.1 Subsystem-SYSTEM

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
Config 測定システムの選択	:SYSTEM:SElect	SANalyzer  NLAnalysis	SAN NLAN	
Preset 各測定システム・パラ メータの初期化	:SYSTEM:PRESet	–	–	
全測定システムの初期化	:SYSTEM:PRESet:ALL	–	–	
Log 最終発生エラー問い合わせ	:SYSTEM:ERRor?	–	<int>,<str>	
エラー・ログ内容の問 合わせ	:SYSTEM:ERRor:ALL?	–	<int>,<str>	

## 6.3.2 Subsystem-INPUT

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
ATT/Prcamp ATT の設定 (Manual)	:INPut<ch=1 2>:ATTenuation	<real>	<real>	
ATT(Auto/Manual)	:INPut<ch=1 2>:ATTenuation:AUTO	OFF ON	OFF ON	
Min ATT の設定 (Manual)	:INPut<ch=1 2>:ATTenuation:MINimum	<real>	<real>	
Min ATT ON/OFF	:INPut<ch=1 2>:ATTenuation:MINimum:STATe	OFF ON	OFF ON	
Prcamp ON/OFF	:INPut<ch=1 2>:GAIN:STATe	OFF ON	OFF ON	
Input Setup IQ Inverse ON/OFF	:INPut<ch=1 2>:IQ:INVerse	OFF ON	OFF ON	

### 6.3.3 Subsystem-CONFigure

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
Meas Mode				
Two Tone モードに設定	:CONFigure<ch=1 2>:TTONE	-	-	
AM/AM,AM/PM モードに設定	:CONFigure<ch=1 2>:AM	-	-	
CCDF モード	:CONFigure<ch=1 2>:CCDF	-	-	

### 6.3.4 Subsystem-SENSe

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
FREQUENCY				
Center Freq の設定	[[:SENSe<ch=1 2>]:FREQUENCY:CENTer	<real>	<real>	
Freq Offset の設定	[[:SENSe<ch=1 2>]:FREQUENCY:OFFSet	<real>	<real>	
Freq Offset ON/OFF	[[:SENSe<ch=1 2>]:FREQUENCY:OFFSet:STATe	OFF ON	OFF ON	
Auto Level Set	[[:SENSe<ch=1 2>]:POWER:LEVel:AUTO	-	-	
Measurement Parameter(Two Tone)				
Freq Separation	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:TTONE:FREQUENCY:SEPARation	<real>	<real>	
Average Number の設定	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:TTONE:AVERAge:COUNt	<int>	<int>	
Average ON/OFF	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:TTONE:AVERAge[:STATe]	OFF ON	OFF ON	
External Signal Source CW/Burst	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:TTONE:SOURce:EXTernal	CW BURSt	CW BURSt	
External Signal Source Repetition Period	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:TTONE:SOURce:EXTernal:RPERiod	<real>	<real>	
External Signal Source Burst On Time	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:TTONE:SOURce:EXTernal:BURSt	<real>	<real>	
Measurement Parameter(AM/AM,AM/PM)				
Average Number の設定	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:AM:AVERAge:COUNt	<int>	<int>	
Average ON/OFF	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:AM:AVERAge[:STATe]	OFF ON	OFF ON	
AM/AM Calculate Region	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:AM:AMAM:CALCulate:REGion	<real>	<real>	
AM/PM Calculate Region	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:AM:AMPM:CALCulate:REGion	<real>	<real>	
Setup for Ref Waveform CW/Burst	[[:SENSe<ch=1 2>]:CONDition:AM:REFerence:WFM	CW BURSt	CW BURSt	

6.3.5 Subsystem-TRIGger

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
Measurement Parameter(CCDF)				
Meas Sample の設定	:SENSe<ch=1 2>:CONDition:CCDF:POINt	<int>	<int>	
RBW の設定	:SENSe<ch=1 2>:CONDition:CCDF:BANDwidth  BWIDth[:RESolution]	<real>	<real>	
CCDF Gate ON/OFF の設定	:SENSe<ch=1 2>:CONDition:CCDF:GATE	OFF ON	OFF ON	
CCDF Gate Threshold の設定	:SENSe<ch=1 2>:CONDition:CCDF:GATE:THReshold	<real>	<real>	

6.3.5 Subsystem-TRIGger

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
SEquence				
Trigger Source の設定	:TRIGger<ch=1 2>[:SEquence]:SOURce	IMMediate IF  EXTernal1  EXTernal2 LINK	IMM IF EXT1  EXT2 LINK	
Trigger Slope の設定	:TRIGger<ch=1 2>[:SEquence]:SLOPe	POSitive  NEGative	POS NEG	
IF Trigger Level の設定	:TRIGger<ch=1 2>[:SEquence]:LEVel:IF	<real>	<real>	
Ext Level の設定	:TRIGger<ch=1 2>[:SEquence]:LEVel:EXTernal	<real>	<real>	
Trigger Delay の設定	:TRIGger<ch=1 2>[:SEquence]:DELay	<real>	<real>	

6.3.6 Subsystem-INITiate

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
INITiate				
Repeat 測定の実行	:INITiate<ch=1 2>:MEASure:REPeat	-	-	
Single 測定の実行	:INITiate<ch=1 2>:MEASure:SINGle	-	-	
測定の中断	:INITiate<ch=1 2>:ABORt	-	-	

## 6.3.7 Subsystem-CALCulate

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
MARKer				
Marker ON/OFF	:CALCulate<ch=1 2>:MARKer<screen=1 2 3 4>:FUNCTION[:STATE]	OFF ON	OFF ON	
Marker X の設定	:CALCulate<ch=1 2>:MARKer<screen=1 2 3 4>:X	<real>	<real>	
Marker Y の読み出し	:CALCulate<ch=1 2>:MARKer<screen=1 2 3 4>:Y	–	<real> [,<real>] [,<real>]	
Peak Search の実行	:CALCulate<ch=1 2>:MARKer<screen=1 2 3 4>:MAXimum[:PEAK]	–	–	
AM/AM,AM/PM Interlock ON/OFF	:CALCulate<ch=1 2>:MARKer:ILOCK[:STATE]	OFF ON	OFF ON	
Marker Trace の設定	:CALCulate<ch=1 2>:MARKer<screen=1 2 3 4>:TRACe	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	
ΔMarker ON/OFF	:CALCulate<ch=1 2>:DELTamarker<screen=1 2 3 4>[:STATE]	OFF ON	OFF ON	
ΔMarker X の絶対値読み出し	:CALCulate<ch=1 2>:DELTamarker<screen=1 2 3 4>:X	–	<real>	
ΔMarker Y の絶対値読み出し	:CALCulate<ch=1 2>:DELTamarker<screen=1 2 3 4>:Y	–	<real> [,<real>] [,<real>]	

## 6.3.8 Subsystem-DISPlay

## 6.3.8 Subsystem-DISPlay

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
Level				
Ref Level の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow]:TRACe:Y[:SCALe]:RLEVel	<real>	<real>	
Level Offset の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow]:TRACe:Y[:SCALe]:RLEVel:OFFSet	<real>	<real>	
Level Offset ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow]:TRACe:Y[:SCALe]:RLEVel:OFFSet:STATe	OFF ON	OFF ON	
Window				
Multi Screen の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow]	SINGle DUAL QUAD	SING DUAL QUAD	
Active Screen の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:ACTive	-	1 2 3 4	
Scale(Two Tone, AM/AM,AM/PM)				
X Scale Left の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:X[:SCALe]:LEFT	<real>	<real>	
X Scale Right の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:X[:SCALe]:RIGHt	<real>	<real>	
Y Scale Upper の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:Y[:SCALe]:UPPer	<real>	<real>	
Y Scale Lower の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:Y[:SCALe]:LOWer	<real>	<real>	
Vector 振幅 Max の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:VECTor[:SCALe]:MAXimum	<real>	<real>	
Vector 振幅 Min の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:VECTor[:SCALe]:MINimum	<real>	<real>	
AM/AM,AM/PM X Scale Interlock ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:ILOck	OFF ON	OFF ON	
Scale(CCDF)				
CCDF X Scale Max の設定	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:CCDF	<real>	<real>	
Display(Two Tone)				
Window Format の設定	:DISPlay<ch=1 2>:TTONe[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:FORMat	OFF PTIME PSPectrum VECTor TRESult	OFF PTIME PSP VECT TRES	
Vector Trace ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>:TTONe[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:FORMat:VECTor<trace=1 2 3 4 5>	OFF ON	OFF ON	*1
Display(AM/AM,AM/PM)				
Window Format の設定	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:FORMat	OFF PTIME PSPectrum AMAM AMPM CCDF TRESult	OFF PTIM PSP AMAM AMPM CCDF TRES	
AM/AM Trace Meas Data ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]:TRACe:FORMat:AMAM:MDATa	OFF ON	OFF ON	

\*1: VECTor1,2,3,4,5 の内容は以下のとおりです。

1:Ref Upper、2:3rd Lower、3:3rd Upper、4:5th Lower、5:5th Upper



機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
AM/AM Trace Characteristic Curve ON/ OFF	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]: TRACe:FORMat:AMAM:CCURve	OFF ON	OFF ON	
AM/AM Trace Reference Line ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]: TRACe:FORMat:AMAM:RLINe	OFF ON	OFF ON	
AM/AM Trace type の設定	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]: TRACe:FORMat:AMAM:TYPE	INOutput  GCOMpression	INO GCOM	
AM/PM Trace Meas Data ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]: TRACe:FORMat:AMPM:MDATa	OFF ON	OFF ON	
AM/PM Trace Characteristic Curve ON/ OFF	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]: TRACe:FORMat:AMPM:CCURve	OFF ON	OFF ON	
AM/PM Trace Reference Line ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]: TRACe:FORMat:AMPM:RLINe	OFF ON	OFF ON	
CCDF Trace Meas Data ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]: TRACe:FORMat:CCDF:MDATa	OFF ON	OFF ON	
CCDF Trace Reference Curve ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>:AM[:WINDow<screen=1 2 3 4>]: TRACe:FORMat:CCDF:RCURve	OFF ON	OFF ON	
Display(CCDF) Gaussian ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow]:TRACe:CCDF:GAUSSian: STATe	OFF ON	OFF ON	
Trace Write ON/OFF	:DISPlay<ch=1 2>[:WINDow]:TRACe:CCDF:STATe	OFF ON	OFF ON	

### 6.3.9 Subsystem-MMEemory

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
Save/Load				
本器各種設定状態の Save 機能実行	:MMEemory:STORe:STATe	<int>	-	*2
本器各種設定状態の Load 機能実行	:MMEemory:LOAD:STATe	<int>	-	*2
測定条件 Save の選択	:MMEemory:SElect:ITEM:NLANalysis:SETup	OFF ON	OFF ON	
Save Meas Data				
測定結果の Save 機能実行	:MMEemory:STORe:MEASure:STATe	<int>	-	*2

\*2: <int> には、対象とするファイル名に付加される最大 4 ケタの番号を指定します。

6.3.10 Subsystem-MEASure

6.3.10 Subsystem-MEASure

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
Total Result(Two Tone) Total Result	:MEASure<ch=1 2>:TTONE:TRESult[:NUMBER<dist=1 2 3 4 5 6>]	-	<real>,<real>,<real>,<real>	*3
Total Result(AM/AM,AM/PM) P1dB In	:MEASure<ch=1 2>:AM:TRESult:PONedb:IN	-	<real>	
P1dB Out	:MEASure<ch=1 2>:AM:TRESult:PONedb:OUT	-	<real>	
P1dB Phase	:MEASure<ch=1 2>:AM:TRESult:PONedb:PHASc	-	<real>	
AM/AM Characteristic Coef	:MEASure<ch=1 2>:AM:TRESult:AMAM:CCOef[:NUMBER<coef=1 2 3 4 5>]	-	<real>	*4
AM/PM Characteristic Coef	:MEASure<ch=1 2>:AM:TRESult:AMPM:CCOef[:NUMBER<coef=1 2 3 4 5 6 7 8 9 10>]	-	<real>	*5
CCDF CCDF	:MEASure<ch=1 2>:CCDF[:NUMBER<per=1 2 3 4 5 6>]	-	<real>,<real>,<real>	*6
CCDF(Average Power)	:MEASure<ch=1 2>:CCDF:APOWer	-	<real>	
CCDF(Peak Factor)	:MEASure<ch=1 2>:CCDF:PFACtor	-	<real>	
CCDF(Power Ratio X %)	:MEASure<ch=1 2>:CCDF:PRATio[:NUMBER<per=1 2 3 4 5 6>]	-	<real>	*7

\*3: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての測定結果を出力します。  
<real>,<real>,<real>,<real> × 6

NUMBER1,2,3,4,5,6 の内容は以下のとおりです。

1:Ref Lower, 2:Ref Upper, 3:3rd Lower, 4:3rd Upper, 5:5th Lower, 6:5th Upper

\*4: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての Characteristic Coef を出力します。  
<real> × 5 個

NUMBER1,2,3,4,5 の内容は以下のとおりです。

1:[0], 2:[2], 3:[4], 4:[6], 5:[8]

\*5: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての Characteristic Coef を出力します。  
<real> × 10 個

NUMBER1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 の内容は以下のとおりです。

1:[0], 2:[1], 3:[2], 4:[3], 5:[4], 6:[5], 7:[6], 8:[7], 9:[8], 10:[9]

\*6: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての Power Ratio を出力します。  
<real>,<real>,<real> × 6 個

NUMBER1,2,3,4,5,6 の内容は以下のとおりです。

1:10%, 2:1%, 3:0.1%, 4:0.01%, 5:0.001%, 6:0.0001%

\*7: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての Power Ratio を出力します。  
<real> × 6 個

NUMBER1,2,3,4,5,6 の内容は以下のとおりです。

1:10%, 2:1%, 3:0.1%, 4:0.01%, 5:0.001%, 6:0.0001%

## 6.3.11 Subsystem-READ

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
Total Result(Two Tone) Total Result	:READ<ch=1 2>:TTONE:TRESult[:NUMBer<dist=1 2 3 4 5 6>]	-	<real>,<real>,<real>,<real>	*3
Total Result(AM/AM,AM/PM)				
P1dB In	:READ<ch=1 2>:AM:TRESult:PONedb:IN	-	<real>	
P1dB Out	:READ<ch=1 2>:AM:TRESult:PONedb:OUT	-	<real>	
P1dB Phase	:READ<ch=1 2>:AM:TRESult:PONedb:PHASc	-	<real>	
AM/AM Characteristic Coef	:READ<ch=1 2>:AM:TRESult:AMAM:CCOef[:NUMBer<coef=1 2 3 4 5>]	-	<real>	*4
AM/PM Characteristic Coef	:READ<ch=1 2>:AM:TRESult:AMPM:CCOef[:NUMBer<coef=1 2 3 4 5 6 7 8 9 10>]	-	<real>	*5
CCDF				
CCDF	:READ<ch=1 2>:CCDF[:NUMBer<per=1 2 3 4 5 6>]	-	<real>,<real>,<real>	*6
CCDF(Average Power)	:READ<ch=1 2>:CCDF:APOWer	-	<real>	
CCDF(Peak Factor)	:READ<ch=1 2>:CCDF:PFACtor	-	<real>	
CCDF(Power Ratio X %)	:READ<ch=1 2>:CCDF:PRATio[:NUMBer<per=1 2 3 4 5 6>]	-	<real>	*7

\*3: NUMBer コマンドを省略した場合は、すべての測定結果を出力します。  
<real>,<real>,<real>,<real> × 6

NUMBer1,2,3,4,5,6 の内容は以下のとおりです。

1:Ref Lower、2:Ref Upper、3:3rd Lower、4:3rd Upper、5:5th Lower、6:5th Upper

\*4: NUMBer コマンドを省略した場合は、すべての Characteristic Coef を出力します。  
<real> × 5 個

NUMBer1,2,3,4,5 の内容は以下のとおりです。

1:[0]、2:[2]、3:[4]、4:[6]、5:[8]

\*5: NUMBer コマンドを省略した場合は、すべての Characteristic Coef を出力します。  
<real> × 10 個

NUMBer1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 の内容は以下のとおりです。

1:[0]、2:[1]、3:[2]、4:[3]、5:[4]、6:[5]、7:[6]、8:[7]、9:[8]、10:[9]

\*6: NUMBer コマンドを省略した場合は、すべての Power Ratio を出力します。  
<real>,<real>,<real> × 6 個

NUMBer1,2,3,4,5,6 の内容は以下のとおりです。

1:10%、2:1%、3:0.1%、4:0.01%、5:0.001%、6:0.0001%

\*7: NUMBer コマンドを省略した場合は、すべての Power Ratio を出力します。  
<real> × 6 個

NUMBer1,2,3,4,5,6 の内容は以下のとおりです。

1:10%、2:1%、3:0.1%、4:0.01%、5:0.001%、6:0.0001%

6.3.12 Subsystem-FETCh

6.3.12 Subsystem-FETCh

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
Total Result(Two Tone) Total Result	:FETCh<ch=1 2>:TTONe:TRESult[:NUMBER<dist=1 2 3 4 5 6>]	-	<real>,<real>,<real>,<real>	*3
Total Result(AM/AM,AM/PM) P1dB In	:FETCh<ch=1 2>:AM:TRESult:PONedb:IN	-	<real>	
P1dB Out	:FETCh<ch=1 2>:AM:TRESult:PONedb:OUT	-	<real>	
P1dB Phase	:FETCh<ch=1 2>:AM:TRESult:PONedb:PHASc	-	<real>	
AM/AM Characteristic Coef	:FETCh<ch=1 2>:AM:TRESult:AMAM:CCOef[:NUMBER<coef=1 2 3 4 5>]	-	<real>	*4
AM/PM Characteristic Coef	:FETCh<ch=1 2>:AM:TRESult:AMPM:CCOef[:NUMBER<coef=1 2 3 4 5 6 7 8 9 10>]	-	<real>	*5
CCDF CCDF	:FETCh<ch=1 2>:CCDF[:NUMBER<per=1 2 3 4 5 6>]	-	<real>,<real>,<real>	*6
CCDF(Average Power)	:FETCh<ch=1 2>:CCDF:APOwer	-	<real>	
CCDF(Peak Factor)	:FETCh<ch=1 2>:CCDF:PFACtor	-	<real>	
CCDF(Power Ratio X %)	:FETCh<ch=1 2>:CCDF:PRATio[:NUMBER<per=1 2 3 4 5 6>]	-	<real>	*7

\*3: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての測定結果を出力します。  
<real>,<real>,<real>,<real> × 6

NUMBER1,2,3,4,5,6 の内容は以下のとおりです。

1:Ref Lower, 2:Ref Upper, 3:3rd Lower, 4:3rd Upper, 5:5th Lower, 6:5th Upper

\*4: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての Characteristic Coef を出力します。  
<real> × 5 個

NUMBER1,2,3,4,5 の内容は以下のとおりです。

1:[0], 2:[2], 3:[4], 4:[6], 5:[8]

\*5: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての Characteristic Coef を出力します。  
<real> × 10 個

NUMBER1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 の内容は以下のとおりです。

1:[0], 2:[1], 3:[2], 4:[3], 5:[4], 6:[5], 7:[6], 8:[7], 9:[8], 10:[9]

\*6: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての Power Ratio を出力します。  
<real>,<real>,<real> × 6 個

NUMBER1,2,3,4,5,6 の内容は以下のとおりです。

1:10%, 2:1%, 3:0.1%, 4:0.01%, 5:0.001%, 6:0.0001%

\*7: NUMBER コマンドを省略した場合は、すべての Power Ratio を出力します。  
<real> × 6 個

NUMBER1,2,3,4,5,6 の内容は以下のとおりです。

1:10%, 2:1%, 3:0.1%, 4:0.01%, 5:0.001%, 6:0.0001%

### 6.3.13 Subsystem-CALibration

機能説明	SCPI コマンド	パラメータ	クエリ応答	備考
Cal AM Capture Reference Data	:CALibration:AM:RDATA	-	-	

6.4 ステータス・レジスタ

6.4 ステータス・レジスタ

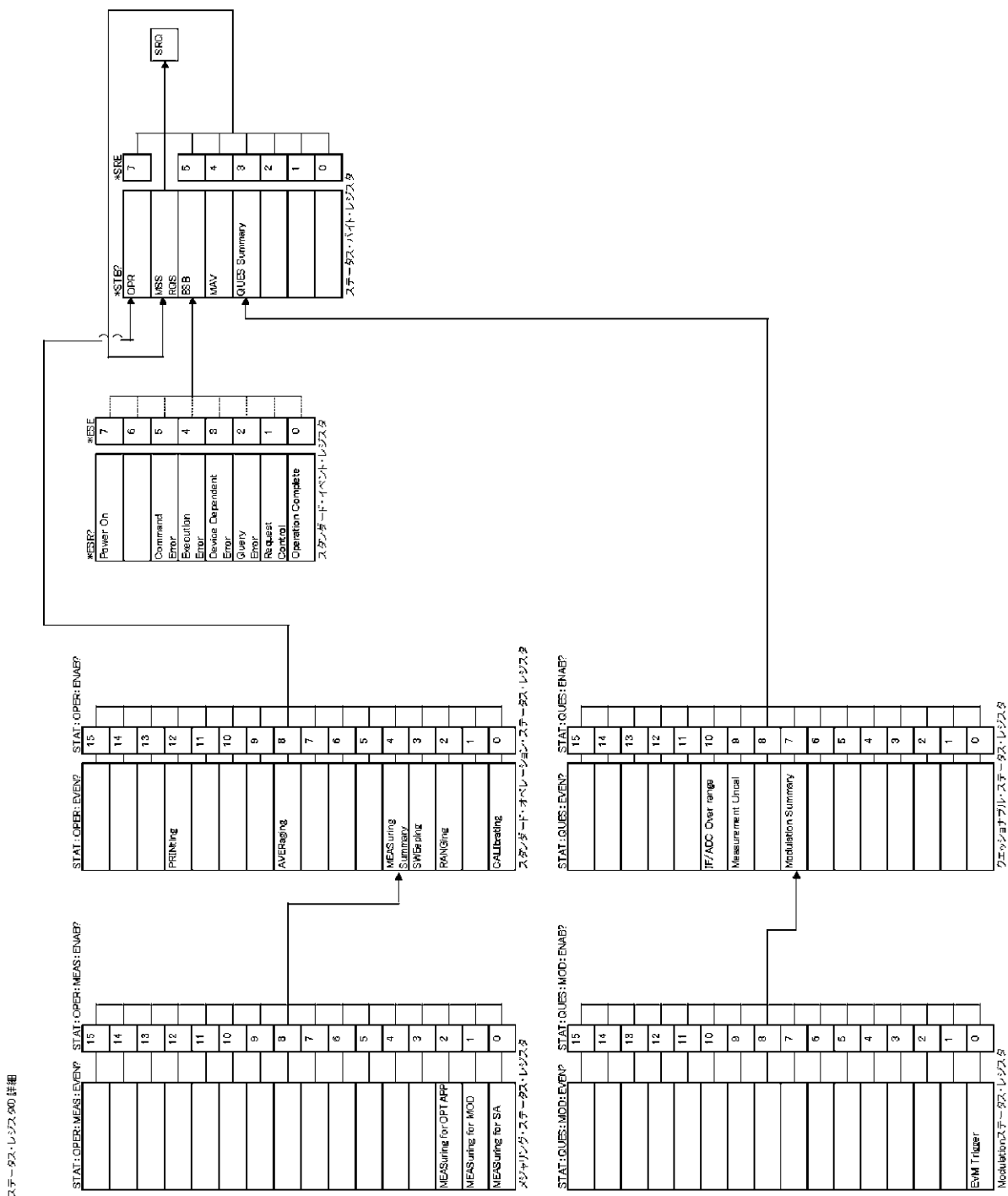


図 6-1 ステータス・レジスタの詳細

## 7. パフォーマンス・ベリフィケーション

ここでは、本器が所定の性能を満足しているかどうかを確認する方法について説明します。  
章の終わりにテスト・データ記録用紙があるので、コピーし性能試験の記録として保存されること  
をお奨めします。

---

**重要** パフォーマンス・ベリフィケーションを実行する前に、ウォームアップとすべてのキャリ  
ブレーションを実行して下さい。

---

### 7.1 試験信号の仕様

パフォーマンス・ベリフィケーションに使用する試験信号を以下に示します。

表 7-1 試験信号の仕様一覧

No.	試験信号名	信号仕様	試験項目
1	Two Tone 信号	信号源 1: 999 MHz 信号源 2: 1001 MHz 電力: -10 dBm	電力測定
2	Two Tone 信号	信号源 1: 999 MHz 信号源 2: 1001 MHz 信号源 3: 1003 MHz 電力: -10 dBm	位相測定

7.2 試験の手順

7.2 試験の手順

7.2.1 Two Tone 電力測定の場合

信号源を以下のように接続します。

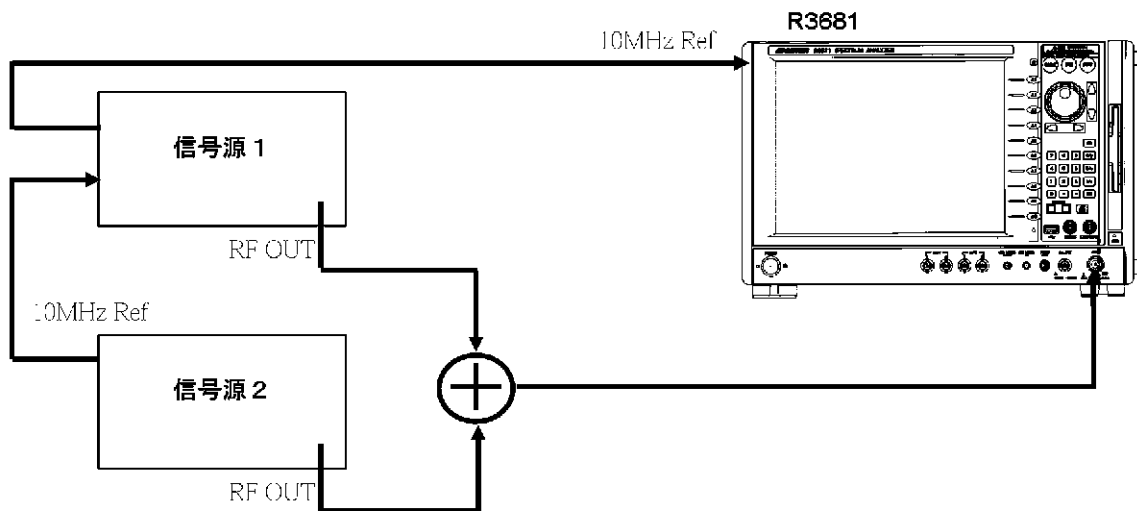


図 7-1 信号源の接続図

7.2.1.1 電力測定

1. 試験を行う前に、本器をあらかじめ以下のように設定します。

FREQ:	1000 MHz
LEVEL:	Auto Level Set を実行
MEAS MODE:	Two Tone
DISPLAY:	Total Result を表示するように設定
TRIGGER:	Trigger Source Free Run
INPUT:	IQ Inverse OFF
MEAS CONTROL:	Two Tone Meas Parameters
	Two Tone Meas Parameters ダイアログ・ボックスは以下のように設定
	Freq Separation: 2 MHz
	Average: ON
	Average Number: 100
	Signal Source: External
	Setup for External Signal Source:
	Signal: CW

2. 本器の **SINGLE** を押して測定します。
3. Total Result の Ref Lower Power [dBm] をテスト・データ記録用紙に記入します。



## 7.2.2 Two Tone 位相測定の場合

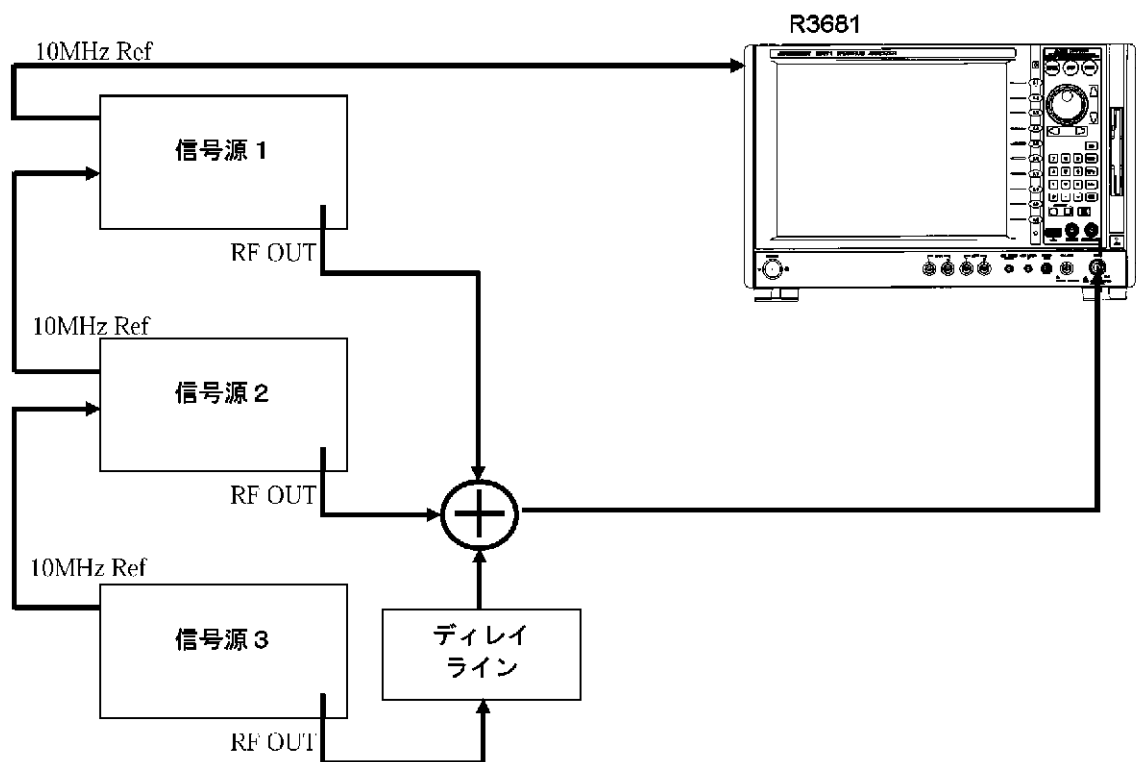


図 7-2 信号源の接続図

### 7.2.2.1 位相測定

1. 試験を行う前に、本器をあらかじめ以下のように設定します。

FREQ:	1000 MHz
LEVEL:	Auto Level Set を実行
MEAS MODE:	Two Tone
DISPLAY:	Total Result を表示するように設定
TRIGGER:	Trigger Source Free Run
INPUT:	IQ Inverse OFF
MEAS CONTROL:	Two Tone Meas Parameters
	Two Tone Meas Parameters ダイアログ・ボックスは以下のように設定
	Freq Separation: 2 MHz
	Average: ON
	Average Number: 100
	Signal Source: External
	Setup for External Signal Source:
	Signal: CW

## 7.3 テスト・データ記録用紙

2. 本器の **SINGLE** を押して測定します。
3. Total Result の 3rd Upper phase [deg] を記録します。
4. デイレイラインを +180deg 変化させます。
5. 本器の **SINGLE** を押して測定します。
6. Total Result の 3rd Upper phase [deg] を記録します。
7. 6と3の測定結果の差をテスト・データ記録用紙に記入します。

## 7.3 テスト・データ記録用紙

テスト・データ記録用紙

モデル名:

製造番号:

試験信号	試験項目	規格			判定
		最小値	測定値	最大値	Pass / Fail
Two Tone	電力測定	-11.4 dBm		-8.6 dBm	
	位相測定	170 deg		190 deg	

## 8. 仕様

### 8.1 Two Tone 解析適応信号

- 周波数間隔 (3 次歪)
 

1 kHz – 10 kHz	1 kHz step
10 kHz – 100 kHz	10 kHz step
100 kHz – 24 MHz	100 kHz step (Signal Source: Internal)
100 kHz – 12 MHz	100 kHz step (Signal Source: External)
- 周波数間隔 (5 次歪)
 

1 kHz – 10 kHz	1 kHz step
10 kHz – 100 kHz	10 kHz step
100 kHz – 10 MHz	100 kHz step (Signal Source: Internal)
100 kHz – 7 MHz	100 kHz step (Signal Source: External)

### 8.2 Two Tone 解析の性能

項目	
温度範囲	周囲温度 : +20 °C – +30 °C
振幅測定	(自動校正後、プリアンプ・オフ、入力アッテネータ 10 dB、CW 信号、周波数間隔 10 MHz 以下、Average ON、Average Number 100、Signal Source External、振幅 -45 dBc 以上)
周波数応答	
50 MHz – 2.5 GHz	< ± 0.4 dB
20 Hz – 3.5 GHz	< ± 1.0 dB
3.5 GHz – 6.0 GHz	< ± 1.5 dB
電力測定精度	< ± (1.0 dB + 周波数応答)
位相測定	(自動校正後、プリアンプ・オフ、入力アッテネータ 10 dB、CW 信号、周波数間隔 10 MHz 以下、Average ON、Average Number 100、Signal Source External、振幅 -45 dBc 以上)
位相測定精度	< ± 10 deg

### 8.3 AM/AM AM/PM 解析機能

#### 8.3 AM/AM AM/PM 解析機能

- AM/AM(Gain-Compression, Input-Output)
- AM/PM
- CCDF
- Power Spectrum
- Power Time
- P1dB
- AM/AM AM/PM 特性多項式係数

#### 8.4 AM/AM AM/PM 解析適応信号

- 被測定信号  
信号周期 600  $\mu$ sec 以内  
バーストの場合、パワー出力時間 2 msec 以上  
バーストの場合、バースト周期 20 msec 以内

---

メモ 信号周期およびバースト周期が条件を満たさない場合でもトリガで同期をかけることにより測定が可能になります。その場合、DUT によるディレイは 600  $\mu$ sec 以下である必要があります。DUT によるディレイが 600  $\mu$ sec 以上の場合は、さらに Trigger Delay を調整して下さい。

---

- 推奨被測定信号  
3GPP  
cdma  
OFDM

## 付録

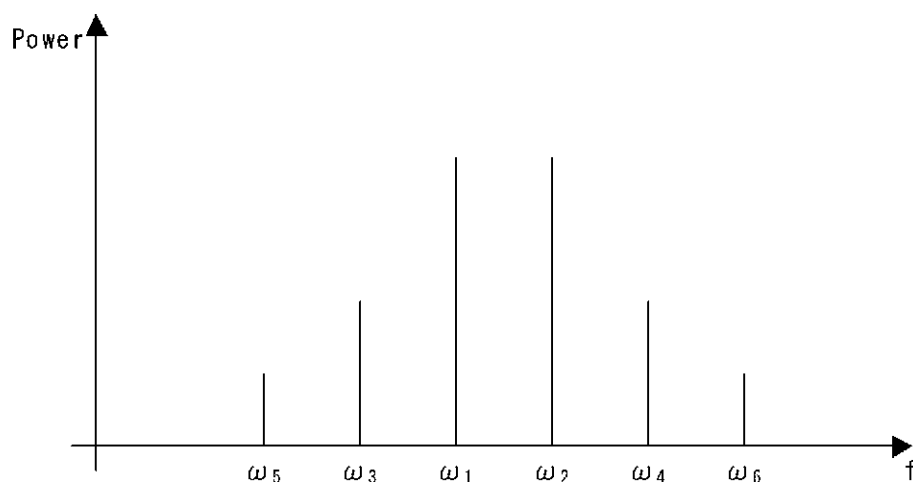
ここでは、以下の情報を付録として説明します。

- A.1 技術資料 (Two Tone)
- A.2 技術資料 (AM/AM AM/PM)
- A.3 測定データ・セーブ機能
- A.4 エラー・メッセージ一覧

### A.1 技術資料 (Two Tone)

#### A.1.1 2 信号歪

ある周波数間隔を持った2周波数成分の信号を非線形回路に入力すると、非線形回路が内部相互変調を起こし3次、5次…の歪が発生します。



$\omega_1$ ,  $\omega_2$  が入力した2信号、 $\omega_3 \sim \omega_6$  が歪信号です。ここでは5次までの成分を示しました。ここで、 $\omega_3 \sim \omega_6$  は以下の式で表されます。

$$\omega_3 = 2\omega_1 - \omega_2$$

$$\omega_4 = 2\omega_2 - \omega_1$$

$$\omega_5 = 3\omega_1 - 2\omega_2$$

$$\omega_6 = 3\omega_2 - 2\omega_1$$

このように内部変調により歪成分が生成されます。各歪成分の位相は  $\omega_1$  と  $\omega_2$  の位相を基準にして測定しています。

## A.2 技術資料 (AM/AM AM/PM)

### A.2.1 特性曲線係数

Total Result の AM/AM Characteristic Coef, AM/PM Characteristic Coef は非線形特性を多項式近似したときの係数を表しています。それぞれ以下のような式になります。

AM/AM

$$y_{am}(x) = A_0 + A_2x^2 + A_4x^4 + A_6x^6 + A_8x^8$$

AM/PM

$$y_{pm}(x) = A_0 + A_1x + A_2x^2 + A_3x^3 + A_4x^4 + A_5x^5 + A_6x^6 + A_7x^7 + A_8x^8 + A_9x^9$$

ただし、

- $x$  は入力最大振幅 [Volt] を 1.0 として規格化した入力振幅 ( $0.0 \leq x \leq 1.0$ )
- $y_{am}$  は入力振幅に対する振幅変化比のリニア値
- $y_{pm}$  は入力振幅に対する位相変化 [radian]

となります。

### A.2.2 プリディストーション

測定したデータは以下の手順でプリディストーションすることができます。

1. 非線形特性を複素表現します。

$$C(x) = Y_{am}(x) \times \{ \cos(Y_{pm}(x)) + j \times \sin(Y_{pm}(x)) \} \quad 0.0 \leq x \leq 1.0$$

2.  $C(x)$  の逆特性をもとめます。

$$R(x) = \text{Inv}\{C(x)\}$$

3. I, Q データを規格化します。

$$p(t) = \frac{\sqrt{I(t)^2 + Q(t)^2}}{\max(\sqrt{I(n)^2 + Q(n)^2})}$$

4. I, Q データを振幅に応じた逆特性でプリディストーションします。

$$I_{pred}(t) = \text{real}\{[I(t) + j \times Q(t)] \cdot R(p(t))\}, \quad Q_{pred}(t) = \text{imag}\{[I(t) + j \times Q(t)] \cdot R(p(t))\}$$

以下にプリディストーション例を示します。

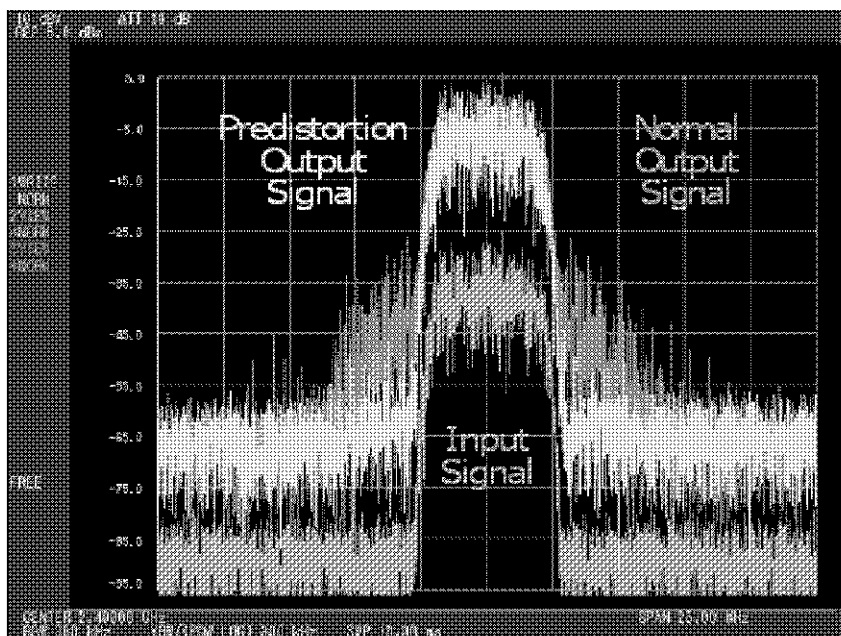


図 A-1 プリディストーション例

---

**A.3 測定データ・セーブ機能****A.3 測定データ・セーブ機能**

測定結果の表や、グラフのプロットに使われる数値データを、CSV 形式のファイルに保存します。アクティブ・ウィンドウに表示されているデータのみが保存されます。4 個の測定結果ウィンドウの表示データをすべて保存したいときは、それぞれのウィンドウをアクティブに切り替え、そのつどセーブを実行して下さい。

ファイルの初めの部分にはユーザ・インタフェースで設定した測定パラメータが書かれます。そのあとの部分に続けて測定結果データが書かれます。

**A.3.1 測定結果の保存フォーマット (Two Tone)****A.3.1.1 Vector**

Vector の測定結果データは、以下のようなフォーマットになっています。

```
***** Result *****
```

```
測定結果名
```

```
タイトル行
```

```
歪次数, 周波数, 振幅 [dBm], 振幅 [dBc], 位相 [deg]
```

Vector の例

```
***** Result *****
```

```
<<< Vector >>>
```

```
Distortion, Freq[Hz], Power[dBm], Power[dBc], Phase[deg]
```

```
Ref Upper, -1000000, -1.2, 0.00, 0.0
```

```
:
```

```
:
```

**A.3.1.2 Power Spectrum**

Power Spectrum の測定結果データは、以下のようなフォーマットになっています。

```
***** Result *****
```

```
測定結果名
```

```
タイトル行
```

```
周波数, 振幅 [dBm], 振幅 [dBc]
```

Power Spectrum の例

```
***** Result *****
```

```
<<< Power Spectrum >>>
```

```
Freq[Hz], Power[dBm], Power[dBc]
```

```
-12600000, -63.5, -65.5
```

```
:
```

```
:
```



### A.3.1.3 Power Time

Power Time の測定結果データは、以下のようなフォーマットになっています。

```
***** Result *****
測定結果名
波形データ開始位置の時間
波形データ終了位置の時間
波形データの数
タイトル行
サンプル番号, 振幅 [dBm]
```

サンプル番号は波形データを時系列順に先頭から数えた番号です。

```
Power Time の例
***** Result *****
<<< Power Time >>>
Start Time[s], 0.000000
Stop Time[s], 0.040000
Length, 25000
No., Power[dBm]
0, -63.5
:
:
```

## A.3.2 測定結果の保存フォーマット (AM/AM AM/PM)

### A.3.2.1 AM/AM

AM/AM の測定結果データは、以下のようなフォーマットになっています。

```
***** Result *****
測定結果名
タイトル行
特性入力振幅 [dBm], 特性出力振幅 [dB(m)], リファレンス出力振幅 [dB(m)], 測定入力振幅 [dBm], 測定出力振幅 [dB(m)]
```

```
AM/AM の例
***** Result *****
<<< AM/AM Gain-Compression>>>
Character & Reference Power Input [dBm], Character Power Output[dB], Reference Power Output[dB],
Meas Power Input[dBm], Meas Power Output[dB]
-62.21, 32.32, 32.32, -60.10, 30.23
:
:
```

A.3.2 測定結果の保存フォーマット (AM/AM AM/PM)

**A.3.2.2 AM/PM**

AM/PM の測定結果データは、以下のようなフォーマットになっています。

\*\*\*\*\* Result \*\*\*\*\*

測定結果名

タイトル行

特性入力振幅 [dBm], 特性出力位相 [deg], リファレンス出力位相 [deg], 測定入力振幅 [dBm], 測定出力位相 [deg]

AM/PM の例

\*\*\*\*\* Result \*\*\*\*\*

<<< AM/PM >>>

Character & Reference Power Input [dBm] , Character Phase Output[deg], Reference Phase Output[deg],  
Meas Power Input[dBm], Meas Phase Output[deg]

-62.21, 0.00, 0.00, -60.10, 32.46

:  
:

**A.3.2.3 CCDF**

AM/PM の測定結果データは、以下のようなフォーマットになっています。

\*\*\*\*\* Result \*\*\*\*\*

測定結果名

タイトル行

相対振幅 [dB], CCDF[%], Ref 相対振幅 [dB], Ref CCDF[%]

CCDF の例

\*\*\*\*\* Result \*\*\*\*\*

<<< CCDF >>>

Power[dB], CCDF[%], Ref Power[dB], Ref CCDF[%]

0.00, 59.0021, 0.00, 59.0010

:  
:

#### A.3.2.4 Power Spectrum

Power Spectrum の測定結果データは、以下のようなフォーマットになっています。

```
***** Result *****  
測定結果名  
タイトル行  
周波数, 振幅 [dBm]
```

Power Spectrum の例  
\*\*\*\*\* Result \*\*\*\*\*  
<<< Power Spectrum >>>  
Freq[Hz], Power[dBm]  
-12600000, -63.5  
:  
:

#### A.3.2.5 Power Time

Power Time の測定結果データは、以下のようなフォーマットになっています。

```
***** Result *****  
測定結果名  
波形データ開始位置の時間  
波形データ終了位置の時間  
波形データの数  
タイトル行  
サンプル番号, 振幅 [dBm]
```

サンプル番号は波形データを時系列順に先頭から数えた番号です。

Power Time の例  
\*\*\*\*\* Result \*\*\*\*\*  
<<< Power Time >>>  
Start Time[s], 0.000000  
Stop Time[s], 0.040000  
Length, 25000  
No., Power[dBm]  
0, -63.5  
:  
:

## A.4 エラー・メッセージ一覧

## A.4 エラー・メッセージ一覧

ここでは、本器で表示されるエラー・メッセージについて説明します。

表 A-1 エラー・メッセージ一覧

エラー番号	表示メッセージ	説明
-1250	No such file or directory.	ファイルやディレクトリが存在しません。 ファイル名またはディレクトリ名を確認して下さい。
-1251	Permission denied.	ファイル操作が禁止されています。 ドライブ名、ファイルまたはディレクトリ名を確認して下さい。
-1252	Not enough space on the disk.	空き容量がありません。 不要なファイルを削除して下さい
-1253	File read/write error.	ファイル入出力でエラーが発生しました。 ディスク容量が残っているか、またはライト・プロテクトされていないか確認して下さい。
-1300	Device is not ready.	ディスクが挿入されていません。
-1400	There is no data in the effective state.	要求されたデータは不確定な状態です。
-1500	Option required.	該当するオプション機能が必要です。
-3210	Input Level is out of range. Check the Ref. Level.	入力信号レベルが許容範囲を超えました。 リファレンス・レベル、または入力信号レベルを確認して下さい。
-3211	Auto Level Set cannot be succeed. Signal level is not stable.	オート・レベル設定が完了しませんでした。 入力信号レベルが一定でないか、またはアッテネータがマニュアルになっていないか確認して下さい。
-3227	Not available while analyzing.	測定（解析）中は受け付けられません。
-3242	Cannot find out Burst.	A/D データ内からバーストを検出できませんでした。
-3243	Not available in this mode.	このモードでは受け付けられません。

## 索引

## [ シンボル ]

[3rd Lower]	5-9, 5-10
[3rd Upper]	5-9, 5-10
[5th Lower]	5-9, 5-10
[5th Upper]	5-9, 5-10
[AM/AM Calculate Region]	5-4, 5-6
[AM/AM Trace]	5-9, 5-11
[AM/AM]	5-9, 5-10
[AM/PM Calculate Region]	5-4, 5-6
[AM/PM Trace]	5-9, 5-11
[AM/PM]	5-9, 5-10
[Average Number]	5-4, 5-5, 5-6
[Average]	5-4, 5-5
[Burst On Time]	5-4, 5-5
[CCDF Trace]	5-9, 5-11
[CCDF]	5-9, 5-10
[Characteristic Curve]	5-9, 5-11
[Format]	5-9, 5-10
[Freq Separation]	5-4
[Input-Output/Gain Compression]	5-9
[Meas Data]	5-9, 5-11
[No Display]	5-9, 5-10, 5-11
[Power Spectrum]	5-9, 5-10
[Power Time]	5-9, 5-10
[Ref Upper]	5-9, 5-10
[Reference Curve]	5-9, 5-11
[Reference Line]	5-9, 5-11
[Repetition Period]	5-4, 5-5
[Send]	5-4, 5-5
[Setup for External Signal Source]	5-4, 5-5
[Setup for Internal Signal Source]	5-4, 5-5
[Setup for Ref Waveform]	5-4, 5-6
[Signal Source]	5-4, 5-5
[Signal]	5-4, 5-5, 5-6
[Total Result]	5-9, 5-10
[Trace Type]	5-9, 5-11
[Vector Trace]	5-9, 5-10
[Vector]	5-9
{DISPLAY}	5-9
{FREQ}	5-17
{INPUT}	5-14
{LEVEL}	5-16
{MEAS CONTROL}	5-4
{MEAS MODE}	5-7
{MKR}	5-13
{SCALE}	5-12
{TRIGGER}	5-15

## [ 数字 ]

2 信号歪	A-1
-------	-----

## [A]

AM/AM AM/PM	5-7
AM/AM AM/PM Interlock On/Off	5-12, 5-13
AM/AM AM/PM Parameters	5-4, 5-5
AM/AM AM/PM Window	5-9, 5-10
AM/AM AM/PM 測定例	4-5
AM/AM AM/PM 解析機能	8-2
AM/AM AM/PM 解析適応信号	8-2
ATT Auto/Man	5-16
Auto Level Set	5-16

## [C]

Capture Ref Data	5-4, 5-6
CCDF	5-7
CCDF Gate On/Off	5-7
CCDF RBW	5-7
Center	5-17

## [D]

Delta Marker On/Off	5-13
Dual Display	5-9, 5-11

## [E]

Ext1	5-15
Ext2	5-15

## [F]

Free Run	5-15
Freq Offset On/Off	5-17

## [G]

Gaussian On/Off	5-7
-----------------	-----

## [I]

IF Power	5-15
IQ Inverse On/Off	5-14

## [L]

Link	5-15
------	------

## [M]

Marker	5-13
Marker OFF	5-13

## 索引

Marker Trace 1/2/3/4/5 .....	5-13
Meas Sample .....	5-7
Min ATT On/Off .....	5-16

**[P]**

Peak Search .....	5-13
Preamplifier On/Off .....	5-16

**[Q]**

Quad Display .....	5-9, 5-11
--------------------	-----------

**[R]**

Ref Level .....	5-16
Ref Offset On/Off .....	5-16
Repeat Meas .....	5-4
Return .....	5-7, 5-8, 5-15

**[S]**

SCPI コマンド・リファレンス .....	6-1
Single Display .....	5-9, 5-11
Single Meas .....	5-4
Subsystem-CALCulate .....	6-7
Subsystem-CALibration .....	6-13
Subsystem-CONFigure .....	6-5
Subsystem-DISPlay .....	6-8
Subsystem-FETCH .....	6-12
Subsystem-INITiate .....	6-6
Subsystem-INPut .....	6-4
Subsystem-MEASure .....	6-10
Subsystem-MMEMory .....	6-9
Subsystem-READ .....	6-11
Subsystem-SENSE .....	6-5
Subsystem-SYSTEM .....	6-4
Subsystem-TRIGger .....	6-6

**[T]**

Two Tone 解析の性能 .....	8-1
Trace Write On/Off .....	5-7
Trigger Delay .....	5-15
Trigger Slope .....	5-15
Trigger Source .....	5-15
Two Tone .....	5-7
Two Tone Parameters .....	5-4
Two Tone Window .....	5-9
Two Tone 位相測定の場合 .....	7-3
Two Tone 解析適応信号 .....	8-1
Two Tone 測定例 .....	4-1
Two Tone 電力測定の場合 .....	7-2

**[V]**

Vector Max .....	5-12
Vector Min .....	5-12

**[W]**

Windows XP の使用条件 .....	2-5
------------------------	-----

**[X]**

X Scale Left .....	5-12
X Scale Max .....	5-7
X Scale Right .....	5-12

**[Y]**

Y Scale Lower .....	5-12
Y Scale Upper .....	5-12

**[あ]**

アクセサリの接続 .....	3-5
異常が発生した場合には .....	2-1
位相測定 .....	7-3
運搬時の注意 .....	2-3
エラー・メッセージ一覧 .....	A-8

**[か]**

開梱時の検査 .....	3-1
過電流保護について .....	2-1
キー別機能説明 .....	5-4
キーボードとマウスの接続 .....	3-5
技術資料 (AM/AM AM/PM) .....	A-2
技術資料 (Two Tone) .....	A-1
供給電源の確認 .....	3-6
共通コマンド .....	6-3
ケースの取り外しについて .....	2-1
ご使用前の注意 .....	2-1
コマンド・リファレンスの書式 .....	6-1

**[さ]**

試験信号の仕様 .....	7-1
試験の手順 .....	7-2
使用環境 .....	3-2
ステータス・レジスタ .....	6-14
静電気対策 .....	3-3
製品概要 .....	1-2
設置環境の確保 .....	3-2
セットアップ .....	3-1
測定結果の保存フォーマット (AM/AM AM/PM) .....	A-5
測定結果の保存フォーマット (Two Tone) .....	A-4
測定コマンド .....	6-4

測定データ・セーブ機能 .....	A-4
測定例 .....	4-1
ソフトウェアを安定して 動作させるために .....	2-2
ソフト・メニュー・バー .....	5-3

### 【た】

タッチ・スクリーンの 取り扱いについて .....	2-2
通信システムの切り替え .....	5-3
テスト・データ記録用紙 .....	7-4
電源ケーブルの接続 .....	3-7
電源投入時の注意 .....	2-3
電源について .....	3-6
電波障害について .....	2-3
電力測定 .....	7-2
動作チェック .....	3-8
登録商標 .....	1-3
特性曲線係数 .....	A-2

### 【は】

ハード・ディスク・ ドライブについて .....	2-1
はじめに .....	1-1
パネル脱着時の注意 .....	2-3
パフォーマンス・ ベリフィケーション .....	7-1
ファンクション・バー .....	5-3
プリディストーション .....	A-2
本器に関する他のマニュアル .....	1-2
本書の内容 .....	1-1
本書の表記ルール .....	1-3

### 【ま】

メジャーメント・ツール・バー .....	5-18
メニュー・インデックス .....	5-1
メニュー・マップ、機能説明 .....	5-1





## 本製品に含まれるソフトウェアのご使用について

本製品に含まれるソフトウェア（以下本ソフトウェア）のご使用について以下のことにご注意下さい。

ここでいうソフトウェアには、本製品に含まれる又は共に使用されるコンピュータ・プログラム、将来弊社よりお客様に提供されることのある追加、変更、修正プログラムおよびアップデート版のコンピュータ・プログラム、ならびに本製品に関する取扱説明書等の付随資料を含みます。

### 使用許諾

本ソフトウェアの著作権を含む一切の権利は弊社に帰属いたします。

弊社は、本ソフトウェアを本製品上または本製品とともに使用する限りにおいて、お客様に使用を許諾するものといたします。

### 禁止事項

お客様は、本ソフトウェアのご使用に際し以下の事項は行わないで下さい。

- 本製品使用目的以外で使用する事
- 許可なく複製、修正、改変を行う事
- リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルなどを行う事

### 免責

お客様が、本製品を通常の用法以外の用法で使用したことにより本製品に不具合が発生した場合、およびお客様と第三者との間で著作権等に関する紛争が発生した場合、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。

# 保証について

製品の保証期間は、お客様と別段の取り決めがある場合または当社が特に指定した場合を除き、製品の納入日(システム機器については検取日)から1年間といたします。保証期間中に、当社の責めに帰する製造上の欠陥により製品が故障した場合、無償で修理いたします。ただし、下記に該当する場合は、保証期間中であっても保証の対象から除外させていただきます。

- 当社が認めていない改造または修理を行った場合
- 支給品等当社指定品以外の部品を使用した場合
- 取扱説明書に記載する使用条件を超えて製品を使用した場合(定められた許容範囲を超える物理的ストレスまたは電流電圧がかかった場合など)
- 通常想定される使用環境以外で製品を使用した場合(腐食性の強いガス、塵埃の多い環境等による電気回路の腐食、部品の劣化が早められた場合など)
- 取扱説明書または各種製品マニュアルの指示事項に従わずに使用された場合
- 不注意または不当な取扱により不具合が生じた場合
- お客様のご指示に起因する場合
- 消耗品や消耗材料に基づく場合
- 火災、天変地異等の不可抗力による場合
- 日本国外に持出された場合
- 製品を使用できなかったことによる損失および逸失利益

当社の製品の保証は、本取扱説明書に記載する内容に限られるものとします。

## 保守に関するお問い合わせについて

長期間にわたる信頼性の保証、国家標準とのトレーサビリティを実現するためにアドバンテスでは、工場から出荷された製品の保守に対し、カスタム・エンジニアを配置しています。

カスタム・エンジニアは、故障などの不慮の事故は元より、製品の長期間にわたる性能の保証活動にフィールド・エンジニアとしても活動しています。

万一、動作不良などの故障が発生した場合には、当社のMS(計測器)コールセンターにご連絡下さい。

## 製品修理サービス

- 製品修理期間  
製品の修理サービス期間は、製品の納入後10年間とさせていただきます。
- 製品修理活動  
当社の製品に故障が発生した場合、当社に送っていただく引取り修理、または当社技術員が現地に出張しての出張修理にて対応いたします。

## 製品校正サービス

- 校正サービス  
ご使用中の製品に対し、品質および信頼性の維持を図ることを目的に行うもので、校正後の製品には校正ラベルを貼付けし、品質を保証いたします。
- 校正サービス活動  
校正サービス活動は、株式会社アドバンテス カスタマサポートに送っていただく引取り校正、または当社技術員が現地に出張しての出張校正にて対応いたします。

## 予防保守のおすすめ

製品にはエレクトロニクス部品およびメカニカル部品の一部に寿命を考慮すべき部品を使用しているため、定期的な交換を必要とします。適正な交換期間を過ぎて使用し発生した障害に対しては、修理および性能の保証ができません場合があります。

アドバンテスでは、このようなトラブルを未然に防ぐため、予防保守が有効な手段と考え、予防保守作業を実施する体制を整えています。

各種の予防保守を定期的実施することで、製品の安定稼働を図り、不意の費用発生を防ぐため、年間保守契約による予防保守の実施をお勧めいたします。

なお、年間保守契約は、製品、使用状況および使用環境により内容が変わりますので、最寄りの弊社営業支店にお問い合わせ下さい。

# ADVANTEST

<http://www.advantest.co.jp>

## 株式会社アドバンテス

本社事務所  
〒100-0005 千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービルディング  
TEL: 03-3214-7500 (代)

第4アカウント販売部(東日本)  
〒100-0005 千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービルディング  
TEL: 0120-988-971  
FAX: 0120-988-973

第4アカウント販売部(西日本)  
〒564-0062 吹田市垂水町3-34-1  
TEL: 0120-638-557  
FAX: 0120-638-568

### ★計測器に関するお問い合わせ先

(製品の仕様、取扱い、修理・校正等計測器関連全般)

MS(計測器)コールセンタ ☎ TEL 0120-919-570  
FAX 0120-057-508

E-mail: [icc@acs.advantest.co.jp](mailto:icc@acs.advantest.co.jp)